

第2回出雲採択地区教科用図書採択協議会会議録（要旨）

【日 時】 令和6年7月18日（木） 8：58～15：52
【場 所】 出雲市役所 3階 庁議室
【出席者】 委 員：各市町教育委員会代表4名、保護者等代表3名
代表調査員：12名
事 務 局：出雲市教育委員会学校教育課 次長・主査・係長

次 長：定刻になりましたので、ただいまから第2回出雲採択地区教科用図書採択協議会を開催いたします。
なお、本日、お一人の委員からご欠席の連絡をいただいておりますけれども、協議会規約の第10条の規定により、本日の協議会は成立しておりますので、ご報告を申し上げます。
それでは、まず初めに、杉谷会長がごあいさついたします。

会長あいさつ

会 長：おはようございます。

委員の皆様には大変お忙しい中であつたと思いますけれども、2回目の教科用図書採択協議会ご出席いただきまして、ありがとうございました。

特に保護者委員の皆様にはお仕事のご都合もあつたかと思いますが、ご都合をつけていただいたことに感謝申し上げます。

さて今日が2回目ということではありますけれども、来年度から2市2町で中学生たちが使う教科書の選定協議を行うというふうになっておりまして、ご案内しております通り、時間的に大変長丁場になっております。

どうぞご協力よろしくお願いいたします。

本協議会に先立ちまして、先般6月25日に34名の先生方、調査研究員ということでお集まりいただきまして、調査研究についてをお願いをさせていただき、その日から作業に当たっていただきました。

今回1人1台タブレット端末というものの効果を教科書にも活かすということで、QRコードがついているものが沢山ございまして、そういうものも逐次チェックいただきながら、どの教科書が最もふさわしいかということで研究を進めていただいたところであります。

今日の報告の中にもそうした視点での報告もあろうかと思っておりますし、この場でもそのことについて確認ができるように準備をさせていただいておりますので、また、聞いていただいて、ご質問等あれば連絡いただけたらと思っております。

本日はこの後、それぞれの種目の代表調査員の先生から研究調査の報告をいただきまして、午前中のところで一旦区切ってそれまでの調査研究に対しての選定協議をさせていただきたいと思っております。また、午後の報告をいただいた後に選定協議ということになりますので、そういう意味で本当に長丁場になると思っております。

ただ、子どもたちが使う教科書でありますので、どうぞ活発な議論となりますことを期待申し上げて冒頭のあいさつとさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

協 議

事務局：ありがとうございました。

それでは資料についての確認でございます。

本日は、協議会の事前にお配りしております、第1回採択協議会の会議録、また選定に必要な資料をお持ちされているかと思いますが、こちらの方よろしいでしょうか。

事務局：よろしいでしょうか。

はい、ありがとうございます。

それでは開催します前に、本日の日程の確認をさせていただきます。

この後、9時10分から、国語から順に4教科種目の教科書の採択を行います。

午前中のところでは、国語から技術までの7教科種目の研究調査の結果について、各教科代表の調査員から説明を受けた後に、午前中分を一括して選定の協議を行います。

午前中の選定協議の終了後、ご昼食をおとりいただきまして、13時から、家庭をはじめとする、7教科種目の教科書の研究調査結果の報告を受けまして、午後に受けた、7種目につきまして、選定協議を行っていただきます。

順調にいけますと予定では、16時の終了予定でございます。

本日はですね1日の会議となりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは協議に入りたいと思いますが、以降の進行は、規約の10条2項によりまして、杉谷会長をお願いいたします。

会議録の承認

会 長：はい、それでは私の方で進めさせていただきます。

まず1点目でございます協議事項の1についてですが、前回、第1回の採択協議会の会議録あらかじめお送りしていると思いますけれども、これにつきまして、何かご意見がございますでしょうか。特にございませんか。

委 員：はい。

会 長：では、ないようでございますので、会議録については承認とさせていただきます。ありがとうございました。

調査研究結果の報告

会 長：では、続いて協議事項2でございますけれども、研究調査結果の報告に移りたいと思っております。先ほど事務局から説明がありましたように、教科種目ごとに代表調査員から報告を受けて質疑を行います。

お手元といいますか後ろに、教科書の見本本が用意してございますので、国語、書写、歴史、公民というふうに進んで参りますので、必要なものはお手元に取りつけていただいて結構でございますので、準備をいただけたらと思っております。

午前中の7教科種目が終わってから、選定協議ということでまた国語から順にさせていただきますと思っておりますので、まずは、報告、質疑、というふうに進んで参りますので、よろしくお願いいたします。

それでは、最初の種目であります国語からとなりますので、教科書等準備なしてから結構ですので、お取りください。

それと事前にお配りしておりますこの選定に必要な資料という、A4判横の冊子でございますが、これもあわせてご用意いただけたらと思っております。

国 語

会長：それではまず、教科、国語から始めたいと思います。

代表調査員の方から報告をいただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

調査員：失礼します、よろしくお願いします。

では、A社から説明をさせていただきます。

A社の教科書は、各教材を通して身につけさせたい言語能力のポイントというのが、言葉の力というふうにして示されていて、あわせて手引きも示されていますので、生徒が見通しを持って、どんな力をつけて、どんなふうに学べばいいのかということを考えて学習に取り組めるようになっています。

また、話し合いについての学習については、グループディスカッションとか、多様な話し合いの例が示してあったりとか、話し合いの例などが載っていて、グループなど協同的な学びの中で、どのような合意形成の仕方をすればいいのかとか、話し合いのスキルを高めるための工夫がされています。

浅井リョウさんの、私たちの未来なども、中学生、思春期の中学生が読んでいて、心に響くようなというか、ちょっと読んでみたいと思うような小説も取り入れられていて、中学生の興味関心を高める工夫がされています。

併せて、読書活動については、本のPOPづくりとか、1年生のところにあるんですけども本のポップづくりとか、2年生のビブリオバトルとか、多彩な読書活動が取り入れられていて、豊かな読書生活を支える工夫も十分になされています。

デジタルコンテンツがとても充実していて、個人の興味に応じて学べるという個別最適な学びではありませんけれども、個に応じた学び、を充実する工夫もなされていますし、この資料がデジタルコンテンツに収められているので、教科書が大変コンパクトになっていて、使いやすいというふうに使いやすい工夫がされています。

単元の学習をしたことを最後、学年末に未来の扉という単元が設定されていて、獲得してきた言葉の力を、学年の最後でどのように身につけたかってことがわかるようになっていて、身につけた力を把握しながら次の学習に進めていくっていう工夫がされています。

このような点から、生徒にとっても使いやすく、大変優れた教科書であるというふうに、優れた教科書です。

続いて、Fの教科書についてです。

この教科書の一番の特徴は、本編と資料編の二部構成になっているということです。

環境問題とか、現代的な課題である環境問題とか、宇宙開発とか、未来の社会、という現代的な課題もありますし、古典の名作とか、話題性のある題材など、バランスよく教材が配置されています。

各学年に、私の読書体験とか、歌の言葉、髭ダンであるとか、ああいうものの、歌詞が詩として載っていて、著名人の作品とか体験とかもの載っているんで、生徒たちは興味を持って、言葉への関心を高めることができるというふうに思います。

1年生の読者の広場には、古事記が載っていて、古事記の中では因幡の白ウサギがとりいれられていて、出雲の生徒島根の生徒は、より興味を持って、この教材に向かえるのではないかなというふうに思います。

合わせて資料編のところに、日本文学名作集というのが載せられていて、和歌とか短歌とか、物語が歴史的な時系列を見ながら、作品が紹介されているので日本文学の歴史とか流れということについても把握できる工夫がされています。

中学生にとってこの本、この教科書は、資料編と本編と2つあって、中学生にとって親しみのある著名人とか、作家とかっていうものも多く使われていて、また文学作品のところには、下に漫画が載っているところもありまして、そういう意味で、生徒の興味関心を引いて、より主体的に学べるような工夫がされている教科書です。

ここで、G社の教科書です。

この教科書は、各教材の前に、教材に学びナビが設けてあります。

学びナビを見て、生徒は目的意識を持って、見通しを持って学習に取り組める工夫がしてあります。

ま、た各学年に学びチャレンジという単元が設けてあって、応用問題になっています。
様々な文章とか資料を関連付けて読むということで、今の時代に求められるような思考力とか表現力とか判断力を高める工夫がされています。

巻末には、言葉の学習室というのがあって、学習に必要な語句とか、用語の索引とか慣用句とか四字熟語なども掲載してあって、自主学习、自分で学習するのに役立つ工夫がされています。

また3年生のところでは、実用文の情報をとらえて活かすということで、取扱説明書とか広告とか、レシピというようなものが取り上げられていて、日常生活における情報の伝え方という視点が取り入れられているのも特徴になっています。

この教科書は、SDG sとか、SNSの使い方という、現代的ないろいろな課題も取り上げていますし、古典とか、現代の作家とか、多様な文章が取り上げられていて、ここでの学びを日常生活にどう生かすかということを工夫、考えて工夫されて作ってある教科書であるというふうに考えて、工夫されて作ってある教科書です。

最後、Iの教科書です。

この教科書については、3年間で352の二次元バーコード、QRコードが設けられています。

問題のワーク、自分でできる問題であるとか、動画だとか多量、たくさんの資料にアクセスできて、生徒の関心や意欲を高める工夫もしてありますし、自分で学びを深める工夫もしてあります。

聞く、話すの領域は、2次元コード、QRコードを用いて、具体的な場面が示されています。

そのまま日常生活とか、そういうものに使えるように工夫がしてあります。

また各学年に本の世界を広げようという単元が2度ずつ設けられています。

1学期の最後のところの学習、2学期のところ、長期休業の前に読書に親しめるようにという配慮だと思いますけれども、実に多様なジャンルの様々な作家の本が紹介されています。

豊かな読書生活を送るための工夫がなされています。

また、各学年に、情報整理のレッスン、思考のレッスンという単元が、系統的に設けられています。

これによって、論理的思考とか情報整理の基本という他教科にも生かせるような学び、が、学べる単元構成があります。この教科書は、優れた文学教材昔からあるという言い方がわかりませんが、長年こう読み親しまれてきた橋からある優れた文学教材と、現代の課題もバランスよく取り扱われられていて、豊かな言語生活とか、豊かな言葉の力を育む工夫がされている教科書だというふうにされている教科書です。

以上です。

会長：はい、ありがとうございました。

4社についての報告をいただきましたけれども、どこからでも結構です。

報告についての質問がありましたら、お願いしたいと思いますけど、いかがでしょうか。

委員：すいません、題材についてです。

今回特徴的というか、ここに示されているA社では、防災環境とか、それからF社も環境問題、それからSDG sからっていうところ色々あるんですが、前回、確か福祉かなんかが結構取り上げられるだと、福祉が切れて、こっちの方へ移ったのかっていうところは何か分かりません。

それと共通してこれは大体の教科書で、これが中心に入っているなっていうところなんかあったでしょうか。

調査員：福祉については、はっきりちょっと覚えていませんけど、というといいかも分かりませんが少し減ってきているなというふうには思います。

それと、各教科にやっぱり共通しているのは、SDG sという持続可能な社会っていうことについては、今回多く取り入れられているなというふうに思って、どの会社にも、取り入れられています。

委員：ありがとうございました。

もう1点いいですか。

A社、それからF、Iは、教材の最後に手引きのような形であって、G社は学びナビで前にありますよね。
これから勉強していくという、これなんか見て、何か違うなどかありますか。

調査員：A社は言葉の力と手引きといての、このI社もそれに近い形なっているんですけども、G社は最初に学びナビっていうことなので、一番最初にあるのでそういう点では見やすいなというふうには思いましたけれども。

委員：前にあるか後ろにあるかで違うなと思って、特徴的っていう形だと思いました。ありがとうございます。

会長：他いかがですか。

委員：A社の総括でやっぱりデジタルコンテンツが充実しているということで、主体的に学ぶことができるというところなんですけど、他の総括、特にこの部分強調していただいているんですけど、具体的に、例えばここ、こういうところについてというのが素晴らしいというか、そういう議論があったとすれば、教えていただければ。

調査員：どこの会社の教科書にもデジタルコンテンツが今回非常に多く取り入れられているのが特徴だなというふうに思っているんですけども、このA社の教科書の、書かれた作家のコメントですとかです、動画でこう載っていて、作家がどういう思いでこの作品を作っているとか、こんなふうに読んで欲しいっていうことも書かれていて、より身近にこう、感じるができるかなと。
例えば1年生の教科書の45ページ、浅井諒さんのこと紹介しましたがけれども、この45ページの、作者の言葉とかについていうこと、こういうところがやっぱり特徴的かなというふうに思います。

— 動画視聴 —

会長：こういう感じであるということのようです。

委員：これが、子どもが持っているタブレットで見られるってことですよね、一人一人がということですね。

調査員：QRコードを読むと、はい。

委員：こういうデジタルコンテンツは、授業の中で子どもたちが見るとか、これからそういうことを考えられるのかもしれない、家に帰ってから見る、子どもたちが勝手にみられるとか、そういうこと。

調査員：今回、特にデジタルコンテンツが非常に増えているので、今後いろんな使い方が出てくると思うんですけども、いろんな学びができるのではないかと考えています。
この授業の中で一斉に見ることもできるし、事前に予習としてみることもできるし、例えば家に帰ったときに、こういうところがあるよって教師が紹介したことによって、家で自学といいますが家庭学習で、さらにこう読んでとか見こういうのを見て勉強するのもあるし、これだけでなくワークみたいな問題を解くものもあったりとか、そういうものもありますので、自分の家庭学習の充実にも繋がるのではないかなというふうに思っています。

委員：どの教材にも、大体そういうのが含まれているっていうことですね。

調査員：どの教科書にも大体入っていますけれども、会社によってちょっと数が違っていたりっていうところ

ろがありました。

委員：1年生の国語のスタートとして、小学校との接続を意識していたところがありますか、会社として。

調査員：そういう視点でちょっと見てなかったんですけども、ただ、どの会社も大体最初のところは詩であつたりとか、今までの学びを振り返って、中学校でこういう学びをしようっていうことが書いてある、というふうに読みました。

委員：A社は確か、ごんぎつねが、最初、入っていたと思いました。
小学校で学習しているやつだと思って、こういう作品まで載せているって珍しいなと思ってみたんですけど。

調査員：はい。音読の仕方とか。

委員：そうですね。

調査員：26ページの方に載っていました。

会長：では、一応時間ですので、国語の方は以上とさせていただきます。

書 写

会長：では続いての科目、書写です。4社ありますけども順に報告の方をお願いします。

調査員：では、A社の教科書ですけども、A社の教科書については、1年生の冒頭に、これまで学んできたことってということで、小学校の学びがあり、最後のところに文字と一緒にという単元があつて、高等学校での学習に触れられていて、小中高の接続ということが意識されています。

イラストやキャラクターとかが登場するっていうことで親しみやすくしてあつたりとか、鮮明な写真がたくさん載っています。

それらを見たり、キャラクターと一緒に学びを進めるという中で、興味関心が深まるような工夫がされています。

また、各学年の最後のページに書写テストが設けられていて、学習内容の確認とか、定着が図れるような工夫がしてあります。

小学校から中学校の一番の違いは、最初から行書に学びが変化するけど、書体の楷書の書体から行書の書体を勉強するというのが、中学校の学びの書写の一番の特徴なんですけれども、この教科書では、中学校で初めて勉強する行書の特徴的な4つのパターンを示してあつて、こういう行書の特徴はこういうところですよってことが、4つ書いてあつて非常に分かり易くなっているという特徴があります。

行書の特徴をもう一度練習して、毛筆で書いた後で次、硬筆でやってみるということを、戻すっていうか、毛筆、硬筆という学習の流れがあつて、それによって日常の書字、字を書くことに、行書が生かせるような工夫がしてあります。

このような点から、このA社の教科書が特に優れた教科書である、生徒にとって、とても使いやすい教科書であるというふうに考えました。

次にF社の教科書ですけど、これも書写も、本編、資料編の2部構成からなっています。

資料編では日常の書式とか、常用漢字の楷書体、行書体っていうのが、こう書いてあるというふうになっていて、資料集としても使えるようになっています。

毛筆の補充教材が充実しているというのも特徴で、毛筆の補助教材を見るだけでも、書体の違

いであるとか、筆遣いがわかるようになっていきます。

グループで新聞を作ろうとか、情報誌を作ろうとか、名言集を作ろうというような単元が設けてあって、これは国語とか、総合的な学習の時間にも使えるような、関連させて学べるような工夫がされています。

篆刻とか、古典の優れた筆跡、古典の優れた作品が紹介されていて、高等学校の芸術科への繋がりであるとか、書への関心を高める工夫がなされています。

目標にあった具体的な手本が載せられていて、紙面も見やすくなっていて、優れた教科書であると言えます。

次、G社です。

G社の教科書の特徴は、硬筆教材が充実していることです。

ここの教科書の古文の一文であるとか、小説の一節が取り入れられて、硬筆の練習ができるようになっていきます。

またコラムが配置されていて、写真も掲載されていて、豊かな文字文化に触れるとか、それに関する考えとか、いろんなものについて学ぶことができ、興味関心を高める工夫がされています。

また47都道府県の城址碑文が掲載されていて、島根県ではとか、こんな文字があるんだっていうようなことが見られるようになっていて、一般的な文字表現について考えられる工夫がされています。

また、生徒の方も興味関心を持てるように工夫されています。

学びリンクがあって毛筆の動画を見ることができて、それを見ながら筆遣いであるとか、筆の流れとか、そういうものを意識できるようになっています。

ノートの書き方であるとか、レポートの書き方とかっていう、その書写で学習したことが他の教科にも使えるような工夫がしてあるっていうのが、この教科書の、良いところであると考えました。

Iの教科書は、硬筆練習帳として、書写ブック、16ページをとじ込みで作っています。

たくさん練習して、書字力を定着させるような工夫がされています。

手書きのよさって何だろうっていう単位では、漫画で手書きのよさが考えられていて、やはり生徒が漫画ということで、興味関心を持って、手書きのよさってということを考えるきっかけになるようにして工夫がされております。

文字を使い分けるっていうところではユニバーサルデザインの文字を取り上げていて、誰にとっても見やすいとか、読みやすい文字の大切さが学べるようになっていきます。

もう1つこの教科書の特徴として、書き初め作品とか半紙作品の手本に、学年とか名前が書いてあって、どこに名前を書くのかとか、名前の書き方はどんなふうにすればいいかっていうようなところは実際書写作品を書くときには、考え悩むところなんですけれども、そういうところへの配慮もしてあります。

書写で学習した内容を、学校生活や日常生活にどのように生かせるのかっていうようなことをした構成になっている教科書です。

以上です。

会長：はい、ありがとうございました。

では、報告のありました4社について、ご質問あればお願いしたいと思いますけどいかがでしょうか。

委員：F社の統括に書いていますが、目標が整理され、目標にあった手本が云云かんぬん書いてあります。具体的にこれどういったことでしょうか。

調査員：はい。

教科書のF社の12ページのところにもありますけれども、最初のところに、目標というふうに書いてあって、目標、ここで言うところの字形の整え方と楷書の点画の筆遣いを理解してっていうふう

にあるんですけど、こうしてあって、そこの横にですね、それに見合った手本、こういうふうなものを書きますよとか、どんな手本をっていうようなことで、関連させて書いてあるということが、あります。

委員：ありがとうございます。

会長：他はいかがですか。

委員：I社だけが、書写ブックというか取り外し使える。あとは書き込み式。別冊書き込み式、いわゆる硬筆の部分ですね。面白いなと思って、教科書に別冊で書写ノートというか、硬筆のノートの部分がついているという。

調査員：はい。こういう形で、書写ブックっていうのがついていて。

委員：他は大体書き込みですよ。

調査員：書き込み式ですね。

委員：これだけちょっと特徴的だと、これが外せるって書いてあって、後から取り外して使いたいというふうに書いてあって、小学校は教科書と別個なんですよ。だから書写ノート教科書と書写ノートがあって、ノートって書いていないことだけど、中学校の他の見ると、教科書に書き込んでいたんだけど、これだけ。

調査員：そうですね、一番の特徴かなと。

委員：それと国語との関係ですが、教材文というか国語で習った教材文が書写の中でそれを使って硬筆で書いたり、それから、そこであった名言とかを硬筆で書くとかっていう、いわゆる関連ですよ。そこは、中学校の場合はあんまり強くない。だから、国語と書写はできれば同じ会社がいいのか、それとも別個でも、あんまり関係ないよっていうことでしょうか。

調査員：硬筆に関しては、教科書とかの作品というのは、どの教科書もそれなりに関連があるように思います。毛筆はちょっと、中学校であまり小さい字をたくさん書かないので、教科書のものを持ってくることはないように思っています。やはり、関連してある方が文章だとか、関係はこれ読んだなと思って勉強できるので、より興味を持って書けるのかなというふうには思います。

委員：ありがとうございました。

委員：I社の教科書には、右利きの人と左利きの方用のQRコードが分かれたのがちょっと目についたんですけど、他の教科書は、そこまで分かれたのは、I社の31ページのところ。

会長：それ、見られますか、左利き用のもの。

— 動画視聴 —

調査員：ちょっとはつきり把握しないんですけど、多分この教科書だけじゃないかなと。

委員：たしか毛筆もあったと思ったけども。

調査員：あったと思います。左利きは非常にやりにくいので、指導するときにも苦勞するというかどうしていいかなと思うときがあるんですけど。

会長：他ないでしょうか。

委員：確認ですけど、先ほど他の委員さんが言った、小・中で同じ会社のものを使った方がいい？

委員：小・中ではなくて。

委員：国語と書写の会社が同じ方がいいのかな、どうかなっていうところは、あまり、評価のポイントとしては、高くないということでもいいですか。

調査員：そのように、あまりその同じ会社がいいというふうな観点で検討はしていないんですけども、結果的に、特に、最初のA社の教科書については、特に中学校、行書の学びっていうのが非常に重要で、行書っていうことについての指導は、このA社の方が一番充実しているのではないかなというふうに判断してA社がいいというふうに、A社が最も中学生にとって学びを深めるに良い教科書ではないかというふうに判断したということです。

委員：分かりました。

会長：ではよろしいですかね。
では、お忙しいところ、大変ありがとうございました。

歴史

会長：では続いての教科、歴史に入らせていただきます。
代表調査員の方、よろしくお願いします。

調査員：よろしくお願いいたします。

歴史の方の説明をさせていただきたいと思います。

全体的なことを先にお話しさせていただきますと、歴史に関しては小学校のときから子どもたちはある程度、内容を知っているというところ、それから中学校では世界との関わりというふうなところがかなり増えてくるっていうところで、小学校の学びと中学校の学びがどう繋がっているか、それから歴史の事実というのはもう変えることはできませんので、そこに子どもたちの問いであるとか、関心だとかそういったところをどのように持ってくる工夫がされているか、というふうなところを見させてもらいました。

それから、歴史は特に教科書の種類も多いですけれども分量が多いために、学習を持っていく側として見れば、どう子どもたちの思考を1時間の中で、うまく、つなげていくかっていうところに非常に苦勞します。

教科書でいうと、見開き2ページのところが1時間というふうな感じで授業を構成していきますけれども、それが、どのようにしやすいかというふうなところを中心に見ていきました。

そういったところで、8冊、検討させていただきました。

簡単にですけれども、Aの方から順番に説明させていただきたいと思います。

まずAの教科書につきましては、これは選定したもので、特に優れているというふうに判断させていただきました。

この教科書は今までも使っている教科書ではありますが、先ほど言ったことが非常に balan

スよくなっているっていうふうなところが、一番だったと思います。

特に歴史に関心を持つときの教科書の、タイトル、単元ごとの名前だったりその見開きの2ページの単元の名前だったりっていうふうなところがあるんですけども、この教科書は、サブタイトルに割と工夫がしてあるなというふうな印象も受けております。

それから、ほとんどの教科書に載っているんですけどもQRコードが、各見開きのページにほとんど載っていると思います。

このQRコード、最近タブレットを1人1台持っておりますので、子どもたちが、自分たちが調べたいと思ったときに、すぐに調べることができるかどうかというふうなところのQRコードの配置であったり、それから、実際にQRコードを読み取ってみたときに、子どもたちにとって分りやすい資料が出てくるのか、それから指導する側が、その時タイムリーに使いたい資料が出てくるかというふうなところを考えたときに、Aの方のQRコードというのは非常に良かったなというふうに感じております。

続きましてGですが、これについては、総括のところに書いてありますけれども、まとめのところのページだったりのところでホップステップジャンプというふうな形で、3段階で子どもたちが、まとめが、考え方に応じてまとめることができるというふうな、各章のまとめが工夫されていました。

子どもたちのそれぞれの個々の能力の違いによってまとめ方もいろいろと違ってきますので、こういったところのまとめのしやすさというふうなところが特徴だったと思います。

それからJについてです。

Jの教科書につきましては前々回の教科書で使っていたような記憶がありますが、ここの教科書の一番の特徴は、タイムトラベルのページだというふうに思っております。

各大きな括りの最初のところでタイムトラベルというページがあって、イラストがそれぞれの時代のイラストが描かれています。

このイラストを見ただけで、子どもたちはその時代がどういう時代かということをイメージしたりそれからもっと細かく見て、そこから何がわかるかというふうなところを見ていくことができるページです。

今回の教科書はこれが章末のところにも使われていて、これと最初のところのイメージづけと関連付けてまとめができるというふうな構成になっているというところは工夫されていました。というところもあって、1番目にといいますか、総合的に見て、優れている教科書だというふうに感じました。

それから、Mについてです。

これについても、ステップアップとか歴史へのアプローチというふうなところ、それから地域からのアプローチというふうなところで、子どもたちが、より関心を持ちやすいような工夫がされていること、それから、章末のまとめのところで総括に書いておりますけども地図とか図表に直接書き込めるような工夫がされていました。

なかなか直接書き込むような、まとめの仕方がしてある教科書はあまりないなという風に感じております。

それから次に行きまして、Oの教科書になります。

ここでは図や絵画が非常に分かり易く示されていました。

それから、どのように学んでいったらいいのかという考え方の基本的な流れが、割と分かり易く、学習の流れが示されていて、子どもたちの思考が繋がりがやすいということ、それから授業者が学習の流れを、組み立て出しやすいというふうに感じました。

それから、Qについてです。

Qのところの特徴はコラムとか、まとめのページというところに割とページが多く割かれている。工夫がされていますで、外の目から見た日本であったり、もっと知りたいコラムもっと知りたいというページが色んなところに見受けられます。

子どもたちが、学習したこと以上に、もうちょっと調べてみようかなというふうな、意欲を 引き立てる、そういう工夫がされているというふうに思いました。

それから続きまして、Rになります。

この教科書の特徴は、いたるところに鳥の目と虫の目という表現で、小さいイラストが載っていて、鳥の目というところから全体を、上から、全体像を見るというふうなところ、それから虫の目というところではもっと細かいところに目を向けさせるというふうなところで、それが非常にわかりやすい構成になっていました。

特に歴史ズームインとか歴史ものさしとかいうようなところの工夫もされていると感じました。

それから最後になります。

Vですが、これは教科書、お手元にあるとわかると思いますが、見た瞬間に違いがわかるもので、大きさ、厚さ、それから中身を見ていただくと、文字の感じ、これだけ縦書きになっております。私もこの教科書は初めて見ましたが、ある意味、感動しました。

この教科書の表紙も歴史ではなくて国史というふうになっているところと、それから教科書のその最初の表紙の絵が、まず、この教科書の中にすべてを語っているかなという感じがします。

書いております通り、神話に基づくこと、天皇家に関すること、古事記に関すること、日本の国史が非常によくわかります。

それから最後のところで、美術史ではないかと思うぐらいの写真がそこはカラーで、あまり他の教科書では使われていない写真等も掲載されていて、この教科書だけちょっと何となく雰囲気が違うなっているところをご覧になったら分かるのではないかと思います。

ただ、文章のページが白黒であるということで、印象深い教科書ではありますが子どもたちにとってやっぱり色があるということは、ある意味大事なことでないかなというふうに思っておりますので、ちょっとそういう点では、後ろの方の写真のみカラーだったというふうな特徴があります。先ほども申しましたが、分量であったり、使われている資料、それから教科書の色合い、字の大きさ、QRコード、子どもたちの考え方がどのように結びつくか、もうすでにある歴史に向かって、どのような子どもたちが問いを立てていくのか。授業の構成者がどのように授業を立てていくかというふうなところが、最も優れていると思われるのがA、それから続いて、これに、優れていると思われるのが、Jの教科書だというふうに、判断させていただきました。

以上です。

会 長：はいありがとうございました。

では、ちょっと会社数多いんですけど、どの会社からでも結構ですので、ご質問あればお願いします。

委 員：A社の方で、地理的分野、公民的分野、他教科との連携を意識させるということで評価しておられるんですけども、調査員さんの中では、具体的にどういったところがそういうふうに評価されたんでしょうか。

調査員：具体的にですと、地理の場合ですと、日本地図、それから世界地図、そういったところの読み取りだったり、地図を利用したその位置関係というふうなところがうまく繋がっているのかどうか、というふうなところがあります。

それから、公民的分野に繋がるという点からすると、公民は地理と歴史との学習があった上での公民的分野というふうなところで、現代社会にどのように繋がっているのかというふうなところ、それから最近で言うと、SDG sであるとか、選挙権であるとかそういったところに繋がるような記述だったり資料だったりというふうなところが、分かり易く示されていました。

それから島根県の場合、特に地域素材というふうなところが、子どもたちにとって非常に興味がいくところではないかなと思っております。特に竹島問題のあたりが、地理でも歴史でも公民でも出てきますけれども、そういったところの繋がりというところが分かり易いものになっているかどうか、それから歴史としてのとらえ方というふうな感じで書かれているかどうかというところで、地理でも、歴史でも公民でも勉強するんだねというふうな子どもたちの意識が繋がるような、というふうなところは意識してみました。

委員：ありがとうございました。

委員：A社のところで、各教科及び実生活の関連についての工夫というところで、教科横断的な取組ができるようになってきているというところで、この29と75がここですってあるんですが、ちょっとここから、読み取れなかったんですが、そういった教科横断的な、または関連という他教科との関連。

調査員：29ページのところで、このあたり、それから、74、ページ5ページのところというあたりは、中国のことであったり漢文のことであったりっていうふうなところが出てきます。
こういったところが国語の学習であったりとか、それからあと、修学旅行とかで、総合的な学習につなげたりとかいうふうなところが出てきますけれども、こういったところの時代の流れと、それから修学旅行で学習したりするようなところが繋がったりとかというふうなことだったような気がします。
小学校との繋がりにっていうふうなところも、意識してそう書いたような気がします。

委員：そこら辺で、関連できるという形。

調査員：はい。

委員：あわせてすいません。
その次のGの教科書で、同じく関連でSDGsから歴史を振り返りっていうところが、138、139ということですが、Gの教科書。
SDGsこれから、言われて歴史の中でっていうところで、リサイクルの知恵というところが、SDGsと、結びついているという。

調査員：そうですね。このページは食であったり、水であったり、そのリサイクルのことだったりっていうふうなところがあって江戸時代からそういう意識があったんだっていうふうなところの繋がりで、このページは非常に興味深いというふうに話をしました。

委員：分かりました。
このページで分かったんだけど、このGの教科書は、全体的にSDGsと絡めて歴史をっていうそういう視点っていう形ではない。

調査員：全部ではないと思います。こういう特設のページがそこに繋がっていて、非常に面白いとか分かり易いっていうこと。

委員：分かりました。ありがとうございました。

会長：地域教材って話があったんですけど、歴史の視点から見て、竹島問題っていうのをどれも扱っているんですけど、どうですかこの8社の中で、一番そういう点で、しっかり書かれてるというか、もちろんこここれだけで学習するものではないと思うんですけど。

調査員：やはり歴史的な事実というのは、子どもたちに確実に押さえないところなので、日本の主張としてやはり歴史的に一度も韓国が領有していた事実はないというふうなところが、地図であったり、歴史的な年号を添えた出来事であったり条約だったりっていうところで確認ができるかどうかというふうなところを見ております。

委 員：そういう中でこのA社というのは、どうなんですか。

調査員：はい。島根県に編入されたところの経緯だったり、そこからの竹島の日っていうふうなところに繋がってるっていうふうなところで判断いたしました。

会 長：他にいかがですか。

委 員：教科書と関係ないんですけど、指導するときって何かこう、副教材みたいなものやっぱありますかね。

調査員：はい。資料集を各校がそれぞれ選んで使っておりますので、それは各校で違うと思いますけれども、それと教科書と、それから子どもたちが勉強しやすいように、自主学習的なワークを買っている学校もあると思います。

委 員：すいません。QRコードはそんなにいっぱい見当たらないんですが、あんまりないですか。

調査員：見開きのページのところに。

委 員：ありました。すいません。下ばかり見てて、上にありました。

調査員：はい、結構あります。

委 員：そうすると先ほど言われた資料集があんまりいらない？

調査員：そうです。それで最近は資料集をあえてやめられるところも出てきています。
これは保護者の経費負担っていう点もありますし、それからタブレットが導入されたことによってこれがあると、割と本当に大きく、はっきりしたものが、自分が探したいものが出てくるっていうところで、あえて、買われないところも出てきてるっていうふうには聞いてます。

会 長：ありがとうございました。
では、歴史の方、よろしいですかね。

公 民

会 長：では続いて、公民の方に移りたいと思います。
では、公民の方も引き続きよろしくお願いします。

調査員：では、公民の方を説明させていただきたいと思います。

公民の教科書は、6冊です。

先ほども言いましたが、公民の学習は3年生の1学期の終わりぐらいから入ります。

3年生で学習しますが、まずは地理と歴史の学習が基盤になっているところから、そことの繋がりがうまく繋がってるかどうかっていうこと、それから公民的分野は、子どもたちが、1人の市民としてこれから出ていくところを考えたときに、現代社会の中でうまく、関心を持ちながら生きていくことができるかっていうことを考えたときに、やはり最新の資料が使われているかどうかとか、それから、選挙権を18歳で持つようになった子どもたちが、それに向かって考えていくことができるか。

それから、いろんなことと折り合いをつけながらうまくやっていくことができるかっていうふうなことが、学習できる分野だというふうに思っておりますので、そういったところを視点にしながら、

見ていきました。

3年生の場合、高校入試というものがあまして、ある程度スピード感を持って進めなくてはいけないというふうなところもありますので、そういったところで、歴史が余りにも、3年生の遅いところまで押してはいけないという、教師側の意図もありますので、残りの時間で、うまくまとめとしての公民的分野の学習ができるかというふうなところで分量等も非常に重要になってきます。

6冊、Aから順番に説明させていただきます。

まず、Aの教科書はこれまで使っているものになります。

授業者の側からすると、今まで使っている教科書が非常に使いやすいというふうな意識がありますが、先ほど言ったように、最新のものが使われているかどうかというふうなところを見たときに、この教科書、思考ツールのことであったりとか、QRコードであったりとか、今まで以上に工夫されているところはもちろんありましたけれども、これまで通りのものが割と多いという印象を受けました。

それで、個人やグループで取り組む作業などについてはやりやすさはあると思いますが、最新の点というふうなところから見ると、あまりにも、前の教科書と同じだなという印象を正直受けました。

それから続きましてGのところになります。

ここの特徴は、最初の方のページだと思いますが、ノートづくりとか思考ツールの活用の仕方とかが説明されているというところが、これが非常に分かり易かったかなというふうに思っております。

それから、課題を持って自分たちで調べたり考えたりして、最終的に自分の言葉でまとめていくというふうな考え方のルールが、割と分かり易い作りになっているというふうに考えております。

それから、地域の素材というところで、海士町が取り上げられているというところで、町を挙げて、まちづくりが行われたり、経済振興に力を入れられたりというふうなところで、現在に繋がっているというふうなところが取り上げられているというところも、この教科書の特徴だったと思います。

総合的に見て、優れた教科書であるというふうに判断しました。

続きましてJの教科書になります。

この教科書の特徴は先ほども言いましたが、最新の資料が多く使われているという印象を受けております。

その資料の使い方、それから、イラストであったりというふうなところも非常に工夫されているというふうに感じました。

それから、学習課題、それから自分たちで調べる、それから言葉で表していくというふうなところ、社会科の場合は資料を基にして、客観的な事実を基にしてそこから根拠を見いだして自分たちで結論を導いていくという考え方のルールに従って、色んなことを考えていきますけれども、個人であったりグループであったり、そういったところで、そういった考え方のルールをもとにした学習の流れがし易いというふうなところがあったと思います。

総合的に見てこれ、この教科書が一番優れているというふうに考えました。

それから、Oの教科書になります。

Oのテーマのところは、教科の特性、地域の実態課題への適合性というふうなところで、明日に向かってというところがありまして、教科書の16ページ、17ページのところだと思いますが、10のテーマで、この持続可能な社会について考える構成となっているというふうなところが、これは非常に面白いなというふうに感じました。

それからQの教科書になります。

このQの教科書は、見開きのページ2ページで割と分かり易くまとめてあるというふうな感じだったり、それから、用語の解説が割と分かり易くしてあるというふうなところに特徴があったかなというふうに思います。

それから時間的にはなかなか難しいところですが、社会科の公民的分野ではディベート等に取り組む学校もあると思いますけれども、そういったところのやり方等についても挙げてあるというふうなところに特徴がありました。

それからRになります。

Rについても、学習に入りやすいつくりになっているかなっていうふうに考えました。

何々の入口とか、何々をこれからというふうなところで、公民的分野の出しているところに近いようなタイトルで、その課題をさせたり、学習したりできるような、というふうなところがあったかなというふうに思っております。

以上です。

会 長：はい。

ご質問あればよろしくお願いします。

委 員：全般通してですけども、各ページが表示してありますが、これは特にそこが顕著であるとわかりやすいということで挙げであるのでしょうか。

調査員：はい。

委 員：それともう1つGとJ、13、14ページですけど、13ページの総括のところでは総合的に見て優れた教材であるJについては特にとありますが、これは特にという意味ですか。

調査員：はい。歴史でもそのように表現させてもらっていますが、「特に」がついている方が一番だと思っております。

会 長：他はいかがですか。

委 員：公民的な分野で全部最新の情報で、何ていうかな、授業とかイメージすると、子どもたちはそれを知ったり、理解っていうところが、やっぱり大きくなったり、教科書を見て、考えていくというところでそれについて、自分はどう思うか選挙権もそうなんですが、一番なんか考えるのに課題提示があったり、これを考えてみようとかっていう、促したりっていうところは、それは考えるための教科書という形でいけば、どれがいいのかなって思った。

調査員：はい。考えるというところは、もちろんどの教科書もそれはあると、考えておられるんじゃないかなと思いますが、今、総合的な学習で、キャリア教育を視点に入れたふるさと学習とか各校が力を入れているところで、それに結びつきやすいところは、やはり、社会科の場合は公民的分野が一番かなというふうに思っております。

特に、すべてのところに関連するんですけども、人口減少がどのように地域に影響を与えていて今後どうなっていくといいのかっていうふうな、自分たちのそのふるさとを、どうしていきたいかっていうふうなところに繋がる分野だというふうに思っております。でも、その辺のところは地域の学習や歴史学習を踏まえた上で、この公民的な学習で、特に経済分野だったりとか、それから地方自治のところであったりとか、それから最後の世界との繋がりであったりとか、ていうふうなところが非常に繋がりやすい、具体的な説明でなくて申し訳ないですけども、そういうところに繋がりやすい。

そのためにもやはり最新の資料というのは必要じゃないかっていうふうなところで、Jの教科書が、一番そういった、特に総合的な学習にも繋がりやすいっていうふうに判断しております。

委 員：ありがとうございました。

委 員：先ほど歴史の教科書の中で、QRコードからいろんな資料が取ってこられるっていうことで、A社っていうものを、あるというお話だったんですけど、公民についても作りとしては同じように、QRコードがたくさんあって、おそらくそこからリンクした資料はたくさんあると思われるんですけど

ど、逆にそうした教科書じゃなくて、このJを選んでおられるっていう中で、最新のものは教科書にはあるんだけど、逆にAの教科書は、それが外から取ってこられるんじゃないかっていう見方もあろうかと思うんですが、その辺はどういうふうに評価をされているんですか。

調査員：このJも、Aほどではないですけども、あちらこちらにQRコードはあります。

それから公民的分野については3年生で学習しますので、ある程度、地理や歴史の中での情報の収集能力だったりとか、それから選択っていう能力はある程度身につikaけてる状態でこの学習をしますので、やはり教科書を見たときに、自分がどう課題を持つとか、どうその世の中と繋がっていくかっていうことを考えるために、やはり教科書ってすごく大事なというふうに思っております。今回はそのQRコードに関して言えば、Aの出版社の方が、すべてのページに近いほど載っておりますので、いいとは思いますが、3年生の発達段階からすると、そこまでページごとになくても、自分たちで探すこともできるというふうに考えております。

やはり、この教科書の使われている資料で、非常に、Aの教科書は残念な気がしました。

委員：変わってないというか、そういうことですか。

調査員：はい。そうですね、はい。

委員：それとJの教科書のこの第5章っていうところをこの順番でいけば、多分もう、ぎりぎり最終学年の学年末みたいなのところに来るんでしょうけど。

第5章の215ページ、これなんかどういうふうに扱われるんですか。

もし、この教科書を採択っていうことになれば。

調査員：ここだけ最後にこれを持ってくるというわけではなくて、先ほども言いましたように総合的な学習が、公民的な分野で、他教科もちろんありますけれども、そういったときに、社会科としてその資料の使い方だったりとか、総合的な学習の自分たちがまとめをしたり、それから地域にこういうことを発信していこうとかっていうふうなことを示したりするときに、非常にこれ参考になるページでして、ここを最後に必ず持ってくるというわけではなくて、所々で、使えると思っています。

委員：こういう位置付けってあんまり似たようなのはあるんですけど、この、この教科書って特徴的かなと思って見させてもらって。

調査員：はい。特に社会科はグラフだったり、表だったり、写真であったりいろんな資料をもとにそれを収集して整理して、それをいかに使うかっていうふうなところがこのページは非常に分かり易いかなというふうに思っています。

会長：他にいかがでしょうか。

ないようですので、代表調査員の方、大変お世話になりました、ありがとうございました。

調査員：ありがとうございました。

会長：では、この後、10分間休憩をさせていただきますので再開は10時半からお願いをいたします。

～ 休 憩 ～

音 楽

会長：では、再開をさせていただきます。

午前の後半は音楽からスタートさせていただきます。

代表調査員の方、よろしくお願いします。

音楽の方は一般と器楽とあります。まず一般の方から、説明をいただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

調査員：失礼します。一般の教科書ですけども、総括のところに書きましたけども、どちらの教科書も優れていたと思うんですが、Gの方は創作活動や体験が多くて、よかったんですけども、説明がちょっと難しくて、生徒が理解して、その活動始めるのに結構時間を要するので、授業では少ない音楽の授業時間数の中では、ちょっと取り扱いが難しいかなっていうのを感じました。

それからQRコードや楽曲について詳しい説明があって良いんですけども、1年生の教科書はちょっと字が多くて、もうちょっと絵や写真が多い方が学習意欲が高まるのかなあと感じました。

一方でHの方ですけども、デジタルコンテンツが充実していて学年の発達段階に応じて教材や、実践例が取り上げられていてシンプルで学びやすいなというところがありました。

1番の内容のある、程度分量のところでも、Hの方は厳選されていて、難易度や分量が適切であるかなあと、発達段階に応じての楽曲が使われているなっていうところが、感じたところです。

簡単ですけど、以上です。

会長：では一般の2社についての説明いただきましたけれどもご質問がありましたらお願いをしたいと思います。

委員：中学校の音楽って言うと専門の先生がご指導になると思うんですけど、このQRコードから入っていく、例えばその旋律だとかピアノ伴奏みたいなどういうふうな使い方があるんですか。

調査員：そうですね。例えば、パーンと紙で印刷するよりはちょっと見るだけの楽譜であったりだとか映像であったりだとか、そういったときには、QRコードでパッと読み込んだりは、使いやすいかなあと思いますが、状況によっては紙で配って、説明されたものを使った方がいいときもありますけども、その時の状況によります、はい。

委員：なるほど。

委員：いいですか。

G社の方ですが、最後、説明が難しく、生徒が理解してっていうところで、授業では使いがたいというところ、ちょっと詳しく教えてもらっていいですか。

調査員：はい。例えば、そうですね、すごく工夫がされてあって、やってみたら楽しそうだなっていうのはあるんですけど、ちょっとこういった38ページ、40ページあたりとか創作の活動、こっちのG社の方ですね、やってみたいなあという感じはするんですけど、段階を経て、説明していくんですけど、ちょっと1年生の段階で、1つの活動のところで、それだけするだけですけど時間を食ってしまっ、最後のところまで、本当にやりたい創作のところまで、なかなかいけないかなあっていう印象を受けました。

そういった創作活動のすごく充実した内容ではあるんですけど、ちょっと、量とか内容が、ちょっと難しい、多いかなあ、取り扱いにくいかなあっていうのが、印象を受けたところです。

委員：ありがとうございました。

委員：これ片方のH社と、今言われた38、39とかの、これに値するのがこっちであるとうどうですか。

調査員：そうですね、Hでいうと、このリズムゲームであったり、16ページ17ページ、もうちょっと簡単なゲームとか、ちょっと違うシンプルな感じかなあと思いますし、そうですね。

創作というか、発展的な活動のであれば、やっぱり38ページ39ページのような、自由に書き込んで、お互いに意見を發表し合うっていう感じのちょっとシンプルって、我々もパッと見たときに、これだったらいけそうだなあっていうところかなと思います。

どうしてもそのG社の方は、効果、1つの活動がすごく細かくやっていて掘り下げていくにはいい教材だなと思うんですけど、ちょっと少ない時間の中で、1時間でパッとやるときにはちょっと難しいかなあと、4時間、5時間ぐらいかかりそうな感じがするんですけど、こちらの方のこういった活動は、1、2時間ぐらいいけそうな、今の音楽の時数に合ってるかなと感じましたし、相談したときにもそういう意見がありました。

会 長：他にはいかがですか。

調査員：2、3年生のところにも、このH社は同じように、創作のところが、32ページ33ページ。

1年生のものを基にして、またちょっと複雑にしていってという流れがあるので、創作の方は、1年生の中で創作を、こう難しいところで掘り下げるって感じですけど。

H社の方は、3年間を通して、伸ばしていってというところがあるので、こちらの方が長期的に授業を組みやすいってところがあると思うし、どうしてもこっちだと1年間で詰め込んでやらないといけないってなってしまうので、現状の中学生とか、学校の様子ではこちらの方が合ってるんじゃないかなと話し合いではなりました。

会 長：では続いて器楽の方に移っていただいていいですか。

調査員：はい、失礼します。

器楽の方もちょっと総括のところを説明させてください。

まず、G社の方はどちらの教科書もすごく工夫されているなあという印象でしたが、G社の方は、幅広いジャンルの曲が選曲されていて配慮されているなあと思った一方で、習得した技能を使って発展的な学習ができるように工夫されているんですけども、基礎的な楽曲が多い方が、現状の生徒にはよいというところがありまして、ちょっと少ない、先ほどとも同じになるんですけど、少ない時間では、ちょっと難しいのかなっていう曲が多かったです。

併せて、そのG社のところは内容、程度、分量のところに書きましたが、下のところに書きましたが、リコーダーの説明がすごく丁寧で分かり易いんですけども、やっぱり高い音とか、普通あまり使わない高いミの音であったり、トリルであったり、ちょっと難しい技能があって、発展的ではいいんですけど、ちょっと難易度が高いのではないかなというところを感じました。

一方でH社ですけど、総括のところに書きましたが、器楽の学習内容や音楽科で身に着きたい資質や能力と音楽を形づくっている要素と関連が示されていて、教科書とこの一般の教科書と連携させている資質や能力を身につけることができるのではないかなと思いました。

それから、比較的平易な楽曲から難しい楽曲に教材配列されていて、シンプルで分かり易く最短で段階的に資質能力を高められるところが優れていると思いました。

いろんな器楽は特に得手不得手があるので、ちょっと苦手な子でも入りを優しくして、難易度を少しずつ上げていった方が、苦手意識を持たずに、学習意欲が高めれるんじゃないかなと思いますので、こちらのH社の方の器楽の教科書の方が、現状の生徒たちの発達とか、成長には向いてるのかなあと話し合いではなりました。

以上です。

会 長：では、器楽について何か質問があればお願いしたいと思います。いかがですか。

委 員：よろしいですかね。

器楽、一般、合わせてH社の方が子どもの実態に合っているのと、時数上の指導内容というか、程度からしても、H社の方が、評価としては、高いということによろしいですかね。

調査員：そうですね。
話し合いの中ではそういうふうになりました。

委員：分かりました。

会長：では、一般と器楽と分けて説明はいただきましたけれども、音楽の教科書という点でいくとこの分野2つ合わせて、H社の方がよろしいという評価であったということでございます。

会長：では、代表調査員の方、ありがとうございました。お世話になりました。

美術

会長：では、続いて教科、美術の方に入らせていただきます。
代表調査員の方、お世話になります。
よろしくお願いします。

調査員：それでは、美術の教科書の検討結果をお伝えさせていただきたいと思います。
どの社の教科書についても、教科書の改訂のたびに、紙や印刷の仕方だったり、非常にどんどん進化していきまして、非常に美しい教科書ができ上がっているというような形になっております。
また、学習指導要領に挙げられている教科の目標に沿った内容で、教科書で扱った部分が、教科の目標、1、2、3のどれかに該当することが分かり易くなっているということが共通しているなと思います。
それから各社ともに、今回の改訂でICT機器を使ったコンテンツに接続、その利便性が非常に上がっているということを感じました。
教科書だけでは伝わらない内容を知ることができたり、味わうことができるというような内容になっております。
それでは、各社をそれぞれ見て参ろうと思います。
まず、D社の教科書になります。
こちら、この2冊になります。
こちらがD社の教科書になりますが、1年生、それから2、3年生というような形で、2冊で構成をされています。
学びの資料というのが教科書の後ろの方にありまして、題材の資料をそれぞれの巻末に持ってきているということで、授業でこの教科書を使用するということが非常にし易いなというふうな作りになっております。
それから他の教科書よりも、2冊になっている部分、整理されているなというような印象がございます。
それから、発想、構想、それから知識、技能、鑑賞というような、教科書の左上のところに書かれている。
それぞれの目標がですね、色分けされておりますので、題材に応じて適切な、分かり易くなっていますし、見やすくなっている。
そして、適切な配置でそれが掲載されているなというような印象がございます。
それと、特にこのD社の教科書、表紙をお触りいただくと分かるんですが、作品の素材感だったりとか、材質感だったりとか、肌で触れて分かるように工夫されているという点があります。
質感まで伝えようというような工夫だなというふうに感じております。
というようなことが、D社の特徴でございます。
続きまして、I社の特徴をお伝えさせていただきます。
I社も、1年生と2、3年生の2冊構成という形になっておるんですが、そのI社については、別

冊で資料ということ、これがついております。

これは1年生、2年生、3年生、3年間で使うものなんですが、別冊の資料が非常に学習内容の確認がしやすい形になっているということ、それからサイズも、若干、教科書に比べて小さくなっておりまして、携行しやすいというようにところが考えられていると思います。

それからですね、この教科書については、他教科との繋がりというような表示がございます。

教科横断的な視点で、美術だけに限らず、他教科のこの部分に繋がるというようにところも明記されているところが、工夫の点かなというふうに感じます。

さらには、ポイントっていうような形で表示されている部分ございます。

こちらについては、その題材で造形的な視点を示されており、理解を促すための工夫がされているという点が感じられました。

これがI社の特徴でございます。

そして最後です。

O社の特徴になります。

こちらO社については、1年生それから2、3年の上、それから2、3年の下というような形で、3部3冊構成と言う形になっておりますが、この3冊構成も、1年生のこの1については、美術の出会いというような副題がついております。

そして、2、3年の上については、学びの実感と深まりというふうな副題がついております。

それから、2、3年の下については、学びの探求と未来と言うふうな形の副題がついております、1年生、2年生、3年生というような、その学年が上がるごとに、それぞれの学年で身につけたい力を系統的に学習できるというようにところが、非常に3冊構成ということで工夫されているなど感じました。

それからですね、ページ、ちょっとすいませんけどこというふうにはっきりは言えませんが、特別の教科道徳の価値項目、それと関連付けられて、それとの関連が明記されている部分がございます、美術の授業の中で、道徳性も養えるというように形に配慮がされている。

その点が非常に優れていると思われます。

また、先ほど言いましたようにICT機器を使つての授業ということが今後非常に重要になって参りますが、ICTマークというのがこの教科書にはついておりまして、タブレット端末を用いて、そのICT機器を使つて制作をしたり、鑑賞したりとかというような形で活用できる配慮がなされているということが、この点については他教科の他の社の教科書よりも進んでいるなどというふうに感じました。

それから、鑑賞の入口、表現のヒント、造形的な視点というような表示が教科書の中にされていて、題材のねらいに迫る構成となっていて、学習のポイントを理解し活動できるように工夫されているということが、他の教科書よりも優れているなどというふうになっております。

以上、3社の説明をさせていただきますが、今回こうやって見させていただいて、O社の教科書が出雲地区の生徒たちには、ふさわしいというふうにしております。

以上です。

会 長：ありがとうございました。

では、3社についてご説明いただきましたけども、質問がありましたらどなたからでも結構です。

委 員：すいません、質問で、先ほどO社のところでちょっと興味深かったのが、道徳の価値項目ということで、これまで、他教科との関連っていうのは多少あったんじゃないかなという想像はするんですが、道徳に特化して、先ほど見たけどどうか他のところのページにも、下のところにあったんですが、美術の中で、中学校のそういうのはあったんですね。

調査員：今回初めて道徳の価値項目が、ドンとこういうふうに掲載ようになっておりました。

委 員：他教科のもありました？

調査員：他教科も今までありませんでした。

今回、他社にもその他教科の関連が出て参りましたが、特にこの〇社に関しては、道徳の価値項目との関連というところをはっきりと明記されているので、非常に進んだ部分かなあというふうに考えてきたという形ですね。

委員：分かりました。ありがとうございました。

会長：はいどうぞ。

委員：〇社の2、3年生上の13ページですか、ICTマークがあっていると言われたんですが、右上、この方ですね。

調査員：そうです。ここです。

委員：タブレットを使って動きを観察して、それから描いてみようみたいな。

調査員：そうですね表現してみようというような。

委員：非常にいいということですね。

調査員：そうですね。

委員：それで、それとこのQRコードとあまり関係、直接は関係ない？

調査員：そうですね。

実は、このQRコードはたくさん場所に載っておるんですけど、ここを開くと、その作品を、例えば上から見た写真が載っていたりとか、360度見られるような形になっていたりと、制作の工程を動画で説明していたりとかいうような形になっておりますので、このICTマークのところとはちょっと違って、この作品についてという形の。

委員：指導されるにあたってこういうのがあると助かる。

調査員：そうですね、上から見てみようということができるので、はい。

会長：そういうのは他社にはない？

調査員：他社もやっておられるところもありますが、内容の充実という点でいうと、この〇社が一番優れていたなというふうに思っております。

会長：この2冊と3冊っていう、単純に3つに分けているので薄いんですけど、子どもにとって、指導する側にとって何かメリットはありますか。

調査員：そうですね。

先ほど言いました通りこの副題がついております。

1年生にはこういうような形で美術、教科との出会いというか美術との出会いというようなところを目標に先生方もされると思うんですね、これを中心で。

2年生3年生の2、3の上下については、2年生のところでパッと配られますが、2年生の課題の

中でも3年生の部分に関連するというか、そういうようなテーマで扱うところもありますので、この2冊をもってやるということができます。

なので、その点はそれだけ深まりもありますし、授業の中で使い勝手があるというふうに感じて、私自身は思っております。

会 長：ちょっと見せてください。

－ 動画視聴 －

調査員：立体作品を作るときに、どうしてもこの写真だけだと平面的な一方的な視点で考えるので、子どもたちがなかなかこれを上から見たときとか、反対側から見たときとかっていう想像ができにくいんですけど、こうやって、ICT機器を使って、上からとか、斜め下からとかってというような目線でその作品鑑賞ができると、自分が制作するときに、そのような視点を広がりというか、そういう力もついてくるというふうに考えます。

当然拡大もできますので、細部がどうなっているとかいうことも確認できます。

委 員：全然ちょっと違うんですけど、質感っていう話が、D社は表紙がこういう油絵で書いたらこんな質感になるとか、それからI社は中に和紙ですかね。

調査員：そうなんです。

委 員：おそらく、当時描いてたものは和紙だろうからするとですね、ものはこういうふうな感じでっていうところがあって。

調査員：いや、すごいなと思って見させてもらったんですけど、今回I社さんが、日本絵画に関しての部分のページは、和紙を使っておられたりっていうようなところがあって、これは今までになかったので、非常に革新的な取組だなというふうに感じさせていただきました。

委 員：今まで、こんな表紙のものは、ないんですか。

調査員：そうですね、ありませんでした。
こういうことができるようになったんだなというふうに思います。

委 員：そういうものと、その質感という部分で見ると、O社はどうだったのかなっていうところがあるんですけど。

調査員：確かにこの質感、触ってわかるというか、こういう今までにない取組の優れた部分は非常に感じたんですけども、こちらのO社さんの3冊構成っていうことについては、その中身を見てみると、例えば、美術を専門にされてない先生がこの教科を持たれたときにも対応できるような内容だなっていうようなところもありました。

実際、冊数が多いので、内容も多いですし、それからこのような形でコンテンツが広がっているというところで、専門でない方が美術の教科を持たれる場合もあるんですけど、そういうようなときにも、ここをこういうふうに解説すればいいかなというようにところが使いやすいのかなというふうに思っております。

会 長：委員さんいかがでしょうか。

それでは特に質問がないようですので、代表調査員の方、大変お世話になりました。
ありがとうございました。

技 術

会 長：それでは、教科、技術ということで代表調査員の方、よろしくお願いいたします。

調査員：失礼いたします。

どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、選定に向けての資料でご説明させていただきますが、まず、A社のものです。

内容、1番のところにありますが、構成として、どの章も生活や社会を支える技術、技術による問題解決、社会の発展と技術の3要素で求められておりまして、授業、学習を系統的に進めることができるというところがございます。

それと、興味関心への配慮、3番目のところですが、各編の導入での身の回りの製品、それと社会における技術を取り上げたイラストを提示し、これから取り組む問題解決の問題の発見、課題の設定、そういうことをする際に、とても分かり易くまとめられております。

4番です。問題解決の例は示してありますが、内容が進むにつれて視野が広い問題設定ができるように、例示が示してあって、授業を行う際に大変分かり易く進められるということがございます。

それと、その他のところですが、技術の匠、というところはビデオコンテンツはございますが、製品の開発者や技術者など、技術分野の学習に関係の深い仕事に就いての方からのメッセージ、それを紹介できますし、生徒の勤労感、職業感を育むことができるように工夫されております。

総括として、ガイダンスから各編で実社会をイメージしたイラスト、それとか技術の見通し、それぞれの技術の繋がりが意識できるように工夫されております。

それと、教師や生徒が閲覧できる短い動画コンテンツが充実しておりまして、先ほどお話ししました技術の匠というものもそれにあたりますが、それが自主的に教科書照らし合わせて学習に取り組める点において工夫されております。

C社のものです。

1番として、具体的な例題に沿って設計図から製作工程、製作ポイントまで写真、政策動画を用いて細かく示してあります。

生徒がそれぞれの自分の進捗状況に合わせて、確認することもできるようになっております。

それと漫画、これを用いた問題解決の流れを守るページが設けてありまして、生徒が主体的に問題解決に取り組むことが工夫されております。

それと3番、興味のところですが、問題解決の手順が丁寧に示してありまして、技術を生かした問題解決能力を育むことができるようになっております。

それと6番、基本技能を参照できるように、本紙とは別冊として、より詳しい作業手順とか作業ポイント、安全を示したスキルアシストが用意されております。

これを見ながら、生徒が、その作業工程に関することを確認できるようになっております。

総括といたしまして、E編のところになりますが、夢をかなえる技術を設定し、既習の内容とあわせて、問題解決の実例を示すことで学習した内容を今後に生かすという意識を、よく高めることができるように配慮されております。

D社です。

まず1番のところににつきましては、基礎的、基本的な技術の習得から技術を活用した問題解決、技術と私たちの未来は系統的に展開されているということ、それと生徒の嗜好に沿って展開されております。

3番、興味関心への配慮等ですが、各編の冒頭には、技術の歴史、それとか小学校との関連、中学校他教科との関連が示してあったり、興味関心を高められるように、実物の写真と詳細な技術の解説が記載されております。

それと4番のところ、技術分野の学習における安全について、ガイダンスにおいて授業場面を例に、基本事項が分かり易く押さえられております。

それと総括として、巻末のところに技術分野の出口という章を設けて、3年間の学習内容を振り返

ることができ、今後の展望ができるように構成されております。

各社、それぞれの特徴がございますが、本地域、なかなか実際の技術に触れるということが難しいところでもありますし、それこそプロの方、ものづくりですから、そういうプロの方に関わることがなかなか難しい地域性もあります。

それと、内容の視覚的なものをいろいろ見たときに、配置ですとか、その構成等全体を見ましたときに、一番といたして挙げさせていただき、特に優れているとして挙げさせていただいたのが、A社のものがございます。

特に先ほどの説明の中でも話をしましたが、特に技術の匠というところが、本当にプロの方の詳しい説明、それとかいろんな思い等が分かり易く説明されておりまして、それに沿った教科書の文章表記が分かり易く説明してございましたので、私どもとしましてはA社が特に優れているというふうに設定をさせていただきました。

以上です。

会 長：はい、ありがとうございました。

では、3社についての説明がありましたけどもご質問あればお願いします。

－ QRコード読み取り －

会 長：（QRコード読み取り）難しかったらいいですよ。

一応、下のところで、文章で紹介してあるということですかね。

調査員：こちらのものでは表現してございますが、DVDソフトが多分ついているのではないかなと思われるのですが、これについては、現行のものが、それが入ったものが指導書について参りますので、そちらではほぼ毎回の授業のところで使わせていただいているような状況ではございます。

会 長：現行でそういうものが付属されているので、おそらく次期のものもそうだろうということなんですね。

調査員：はい。

会 長：他には、ございますか。

委 員：どの教科書も問題解決というところで、技術の方、展開がされていると、その分がいろいろこの問題を解決するのにこういうってところがあったと思うんですが、教科書上そうで、全部そういう展開だなと思ったんですが、生徒が、自分たちで課題を発見してっていうところは何か盛り込んであるっていうこと。

調査員：各社、様々なことで、こういう点で考えたらどうだろうかみたいなのが入っていたとは思いますが、その各社のものも、解決の方法とか、ある程度の方向性等は示してあったというふうに思います。

委 員：分かりました。

基本技術の展開として、問題があってそれを解決するためにこういうのを作ってみようとか、その展開という形ですね。

調査員：そういう形ですね。

委 員：分かりました。その流れが一番良いというのがA社のイメージ。

調査員：はい。

委員：分かりました。

会長：C社はこれがついているってお話があったんですけど、他の2社を使ったときは、これに当たるものはどういうふうにするわけですか。

調査員：各教科書の説明のところに、詳しくは、それぞれ、安全についてどうかというのが書いてありますので、もちろんそちらでも対応できるものというのは思っております。

会長：これがなくても、教科書の中でそれぞれに、そのところで、書いているってことなんですね。

調査員：書いてございます。

会長：分かりました。

会長：よろしいですかね。
では、代表調査員の方、大変お世話になりました。
ありがとうございました。

採択協議

会長：スケジュール上はですね、ここで休憩となっておりますが、採択協議をちょっと繰り上げてさせていただいて、終わり次第、昼食休憩という形にさせていただいてよろしいですかね。

委員：はい。

国語

会長：では、日程を一部変更させていただきたいと思います。
では資料の最初に戻っていただきまして、教科、国語でございます。
調査研究4社の比較の中で、A社が最もふさわしいのではないかという報告でありましたけれども、これについて、ご異議はないでしょうか。
意見があれば、お願いをしたいと思いますが、なければ、全会一致ということになっておりますので、挙手という形をとらせていただきたいと思います。まず、代表調査員の報告、A社ということについてのご意見ありますか。

会長：では、意見なしということで報告の通り、A社を選定することについて承認いただける方は挙手をもってお願いしたいと思います。

会長：では、全員とみなします。国語についてはA社とさせていただきます。

書写

会長：続いて、教科、書写でございます。
書写については、4社の比較調査の中で報告では、A社が最も適している、優れたものであるという報告でございましたが、これについてご意見ございませんでしょうか。
では、意見ないようですけれども書写について報告の通り、A社、ということで承認いただける方

は挙手をお願いいたします。

会 長：ありがとうございました。

挙手全員ということで、書写についてはA社といたします。

歴 史

会 長：続いて教科、歴史でございました。

歴史、8社の調査研究をしていただきまして、先ほどの報告では、A社が最も優れていて適しているという報告でございましたが、これについてご意見ございませんでしょうか。

会 長：ないようですが、教科、歴史についてA社とすることについて、承認いただける方は挙手をお願いいたします。

会 長：では全員と認めます。

教科、歴史はA社とさせていただきます。

公 民

会 長：続いて、公民でございます。

6社の比較調査をしていただきました。

報告の中では、J社が優れていて適しているのではないかとということで、現行はA社を使っているわけですが、今回の調査で、J社ということの報告がございました。

このことについてご意見はございませんでしょうか。

委 員：教えてください。私もわからないので確認なんです、歴史の部分では、歴史がA社というところでは、公民的分野とか連携を意識させる内容となっているところがあるんですが、その部分で公民は会社が違うんですが、そこは何か言っておられましたかどうか。
問題ないというか。

会 長：歴史と地理の学習を基盤として、公民の学習をするということで、並行して学習するものではないという説明の中で、しかも、これまでのものと資料があまり変わってなかったのが残念だったということが一番の理由だったと言ってまして、やはり今の時代に合った資料としては、やっぱJがいいんじゃないかということの説明ではなかったかと思います。

委 員：分かりました。

会 長：そのことについて、再度調査をしてもらった方がよいでしょうか。

委 員：それはいいです。

会 長：他にございませんでしょうか。

では、公民についてですけれども、J社とすることについて承認いただける方は挙手をお願いいたします。

会 長：では、挙手全員ということで、公民についてはJ社とさせていただきます。

音 楽

会 長：続きまして音楽でございます。ちょっとページが飛びます。
調査研究、2社ずつで行っていただきまして音楽一般と音楽器楽、それぞれ報告がございましたけれども、それぞれについてもH社、優れていて指導者としても扱いやすい、子どものレベルとしてもこちらの方が適しているんじゃないかという評価でございまして、一般、器楽合わせてH社という報告でございました。
このことについてご意見、ございますでしょうか。

会 長：では、ないようですので音楽については、H社とすることについて承認いただける方は挙手をお願いいたします。

会 長：ありがとうございました。
挙手全員で音楽はH社とさせていただきます。

美 術

会 長：続いて美術でございます。
3社ございました。
報告の中では、O社が最も優れているという報告でございました。
このことについて、ご意見ございますでしょうか。

会 長：ないようですけども、美術についてO社とすることについて、承認いただける方は挙手をお願いいたします。

会 長：では、全員挙手でございましたので美術については、O社とさせていただきます。

技 術

会 長：では、午前の最後、技術でございました。
3社の比較の中で、A社が最も優れていて適しているという報告でございました。
このことについてご質問、ございますでしょうか。

会 長：ないようですので、技術について、A社とすることについて承認いただける方は挙手をお願いいたします。

会 長：ありがとうございました。
では、技術は、A社とさせていただきます。

会 長：では、午前中の調査報告及び選定についての協議は以上とさせていただきますので、この後、昼食休憩とさせていただいて、午後の開始は1時とさせていただきますので、昼食等については説明をお願いいたします。

事務局：では午前中の方協議をいただきありがとうございました。
こちらの方に昼食のご用意させていただきますので、召し上がっていただいて、午後も引き続きお願いいたします。

～ 昼食休憩 ～

調査研究結果の報告

家 庭

会 長：それでは午後の部を始めたいと思います。
午後は教科、家庭からですので準備の方をお願いしたいと思います。
代表調査員の方、大変お世話になりますけどよろしくお願いします。
では、調査結果について報告をお願いします。

調査員：はい。教科書ごとに、お伝えします。

Aの会社ですけれども、3年間の指導計画が発達段階ごとに内容から始まりますけど、Aのガイダンス的なところがあってそのあとB、Cでまた最後に、幼児の生活、3年生のところで学習する学校がほとんどだと思うんですけど、その部分が後から入っているということで、年間計画が非常に配慮されているなということを思いました。

それから、写真や実習例とか、実践例など写真とかそういうものがたくさん使っていて、生徒の興味関心を高める、主体的に学べるような工夫が各ページに見られるなというふうに感じました。それから、基礎・基本的な学習の部分もなんですが、QRコンテンツを活用して発展的な学習に繋がるようなコンテンツが準備されていると感じましたので、一番優れている教科書ではないかなと感じたのが、Aでした。

特にデジタルコンテンツの資料が多いことと、家庭科は、技能的なこととか実践実習とかが多いので、視覚支援でICTを取り入れる教員が多いと思うんですけども、資料も多くてそれから操作性、次のページにというか違うところを見るとき操作性なんかも、とてもよかったなと感じました。

Cについてですけれども、各章が自立度チェック、自己評価、振り返りとふうに順番に、常に設定されていることと、振り返りを重視して、非常に記入欄が設定されているというところで工夫されているなと感じました。

デジタルコンテンツも、個々の自分の学習を進度とか興味に合わせて、個々に応じて学習が進められる形にはなっているなと感じました。

それからDについてですけれども、学習内容の理解を補足する科学的な資料が写真等で実験のようなページがあったりしておりまして、生徒の関心意欲を高めたり、興味を引くような主体的に学べるように工夫がされている教科書でした。

あと発展的な内容も多く取り上げられていて、主体的な学びを促したり、それから視野が広がるような、深まったりするような工夫がされている。優れているかなと思いましたが、Dの教科書については、結構家庭科教員は献立作成のところでソフトが欲しいっていう意見、私もたくさんの先生方とよく話をするんですけども、その献立作成ソフトがなくて、それから動画が非常にちょっと短くて、授業の中で活用するにはもう少し、資料としては、詳しくみたいなというような感じを受けました。

以上です。

会 長：はい。ありがとうございました。

それでは3社についての、調査結果を報告いただきましたけど、質問がありましたらどなたからでも結構ですので、お願いしたいと思います。

会 長：題材の配列が随分、会社によって違うようなんですけど、もちろん年間指導計画を作ってやられると思うんですが、現状に合ったというかっていうのは、どう3社のうちでどれでしょうか。

調査員：やっぱりAがすごくスムーズ。ほとんどの学校がまずガイダンスで、地域とかちょっと周りに目を

向けた後、基本の食、衣、住をやって、最後やっぱり3年生ぐらいの、ちょっと大人の入口になったところで幼児や高齢者との関わりっていうところをやるところが多分ほとんどだと思うんです。そういう面で、その順番に教科書が並んでいった。他は、Aっていうところに全部もう地域との関わりもあって、幼児の教育との生活みたいなのところも割と前半に入ってしまったっていて、飛ばしてこっちをやって戻ってみたい流れに教科書通りでいくとなってしまうので、それを考えるとAが正しいのかなというふうに感じました。

委員：献立作成ソフトはAでいえば51ページだそうですが、どのページが献立作成ソフトということになるのでしょうか。

調査員：すいません、これ、50ページの方になります。これを紙媒体ですべて皆さん大体やっておられて、大体自分でExcelで作ったりもされてる方もおられるんですけど。

委員：分かりました。

会長：これは、A社にはあるんですか。

調査員：ありました。A社ともう1社、C社です。C会社にもあって。

会長：D社にはないということですね。

調査員：D社にはなかったです。

委員：違う分野で、技術分野のところでは、教科書を見ると問題解決という形で、それぞれの問題を解決するためにこうしていこうという、それが全ての教科書がそういうパターンだったんですが、家庭分野では、そういう身近な問題を解決するためにこう、というそういう流れという形ではない。

調査員：基本的にはそうです。

委員：そういう流れですか、分かりました。
それは、このすべてのものが解決をしていく流れ、身近な問題を解決する流れだと。

調査員：はい。

委員：分かりました。

会長：このDの教科書は、先ほど技能的な部分の指導について動画が短いとかっていうお話があったんですけど、比較しようとなると、例えば、AとDで同じところに同じ動画があるのかどうか分からんですけど、何か、この教科書の何ページとこの教科書の何ページだったというのがありますか。

調査員：動画のところがっていうことですかね。

会長：同じ内容じゃなくてもいいんですけど。

調査員：例えば幼児の生活のところとかの動画が、ここにはないかしれんですけど、ちょっとICTの読み込んでみると、D社の方はすぐ終わってしまうような感じ。

会長：それは何ページの動画を見たらいいんですか。

調査員：コンテンツも各ページから行けるものと。

会 長：はい。

調査員：例えば、この動画は、私は確認はしないですけど、9ページと13ページ、13ページ手の洗い方とか、調理のところのところが多分出ているんじゃないかと思うんですけど。

会 長：9ページ。

調査員：Aが9ページだったと思います。

Dの方がいいですかね。

ちょっと比較したか。幼児のところとかを見ていた気はするんですけど。

ちょっとお待ちください、9ページじゃない方がいいかもしれません

会 長：かなりこう具体的に、こういう風にするんだっていうのが出ていますか。

調査員：そうでもないんですけども、子どもにそれを見て解説するには、ちょっとこう、もの足りなくてシュートと終わる感じがしてしまっていて、Aの方は割と、ピンポイントに程よい長さかなあという感じがしました。

多分、ここら辺が一緒かなと、A社だと233ページ。D社だと49ページ。

この時にここを比べたかはっきりと覚えてないですが、なんか幼児の動画を見たときに、こっち短いねっていう話をしたら、あと、調理の動画もあったような気がしますが、QRコードを読み込んで動画を見たりできるようになっているんですけど。

－ 動画準備 －

会 長：ちょっと時間かかりそうなので、他の質問があったら、今のうちにしてください。

委 員：たまたまですけど、A社の127のQRコードを読み取ってみたら、玉結びとかの動画を、右利き用と左利き用の動画がありました。

会 長：今、何ページっておっしゃいました？

委 員：127ページです。

調査員：そこは確認していなかったですけど

委 員：右利き左利き用っていうのがあって。

調査員：左利き用があると、すごく助かります。

委 員：他のやつを見たら、動画で多分右利きの動画しかないのかなって。
そういった点ではA社さん。

調査員：動画が非常に丁寧な感じで、調理の流れも、すごく、シンプルだけどよかった。
幼児の生活、遊びの辺とかでもだと思うんですけど、どこでも、1個ずつ見たいところを選べる操作性とかも、とてもいいなと思って。

会 長：逆にD社はそれぞれ1個しかないとかするんです。

調査員：なんかこう、どこに次行って戻って、どう行くみたいなのが結構パツとできない感じがありましたけど。

事務局：動画の準備ができたようです。

－ 動画視聴 －

事務局：選択の場面で、スライドで出ているのか、文字で出ているのかの違いがあります。

会 長：他に何かありますでしょうか。

それでは、特段あとはないようですので、代表調査員の方、大変お世話になりました。ありがとうございました。

理 科

会 長：では、次、理科になります。

では、次は、教科、理科の説明をお聞きしたいと思います。

5社の比較調査になります。

代表調査員の方、よろしくお願いします。

調査員：どうぞよろしくお願いします。

それでは、説明をさせていただきます。

Aからではなくて先にLから順番を変えて、L社の未来へ広がるサイエンスという方です。

今回の調査で、理科、集まった調査員、理科教員で、最も優れた教科書であるというふうに結論付けたのがこのL社の教科書でございます。

説明の文章を、少し簡単に説明をさせていただきます。

まず内容ですけれども、通常の理科の時間に対して少しゆとりがある時数で構成されていることと、生徒の観察実験が中心に構成されているというところが良い点だと思いました。

あと2つ目の2段目のポツですけど、学ぶ前にトライ！、学んだ後にリトライ！ということで、という構成になっていて、自己評価を生徒が行えるというところも良い点だと思いました。

3点目です。3点目の1つ目の丸。非常にダイナミックな紙面が構成されていまして、2次元コード、はてなスイッチというのが章の導入のところにありまして、QRコードで読み込みますと、動画で、この章で学ぶことというのが短い動画で流れまして、非常に、最初に生徒の興味関心を引いたり、疑問を引き出せるような工夫がされているというふうに感じました。

飛びまして5番目です。他教科、実生活との関連ですけど1つ目の丸にありますように、他評価との関連づけが非常にたくさんのところにありまして、学びが深まるような工夫がされているように感じました。

また、部活動、ラボ、お仕事ラボ、お料理ラボというような形で、理科といろいろな日常生活の関連が、コラムとして載っているところが、とてもよいというふうに感じました。

総括として、1つ目、2次元コードが掲載されておりまして、1人1台端末の時代ですので、非常に効果的に活用できるように工夫されているというふうに思いました。

また、各学年の最後のところに採Qシートというのがありますけれども、実際にここにはワークページポートフォリオ形式で書き込みをしていくんですけども、これの工夫が、とても他社に見られない、よさがありまして、基礎基本的な学力が身につく工夫などもしており、最も優れた教科書であるというふうに考えました。

以上がLについての説明でございます。

引き続きまして今度、戻りましてAの方、現行使っているのはこのAの教科書を使っています。この教科書についても、いくつか説明をさせていただきます。まず1つ目内容ですけども、見開き1ページがこの時間の授業というような形で設定されているページがありまして、この1時間で、この授業をするんだな、学習をするんだなという見通しが持てるというところが、まず優れているところだと思います。

それから、4番目、デジタルコンテンツこれにもありまして、生徒が家庭学習で取り組みやすいような工夫もあります。

また、2年生では、雲南市のたたら製鉄、菅谷のたたら写真なども掲載されていて、地域の資源に触れるという点で非常に興味を引く構成となっています。

その他ということで、このAだけは学習の結論を自分の言葉で表現するようなまとめられ方になっていて、他社は各教科書が結論づけの文章を表現しているんですけども、Aは、学習の中で生徒が自分の言葉で説明するような作りになっています。

言語化するというところが、すごく、言語化することに重きを置いた教科書ではないかなと思っています。

総括ですけどもこの教科書も非常にダイナミックなイラストが、ビジュアルな写真やイラスト、ダイナミックな写真が掲載されて、より生徒の件興味関心が非常に高められる工夫がしてあると思いました。

先ほども申しましたが、QRコンテンツが豊富に掲載されておりまして、家に帰っても学習ができるという点では、優れた教科書であるというふうに考えました。

次、3社目の方にいかせていただきます。

E社、シャボン玉の写真が載っているものです。

これは、優れた点は色々あるんですけども、全部の紙面がWeb化されているというところが最も特徴的なところではないかと思っています。

そしてそのWebの中で、実は翻訳でポルトガル語の言語に訳されたり、中国語とか他の言語に瞬時に訳せるような、翻訳される機能がついていることが分かりまして、そういう意味では、多様な文化を持つ、生徒が多く在籍する出雲市としては、とても活用に向いている、採用されなくても、1冊持っておきたいと思うような教科書というふうに、個人的に思っています。

あとはごく簡単にさせていただきます。

次は、G社、3年生は星空の写真が載っている教科書です。

見開いていただくととてもよくわかるんですが、文字が非常に大きく、とても読みやすい文章になっています。

また、重要語句に色付けがしてあったり、課題や結論の部分が太字で書いてあったりして、理科が苦手な生徒でも要点が非常に分かり易くなるように作られているというふうに感じました。

コラムもあちらこちらにありまして、ハローサイエンスというコラムがありまして、日常生活との結びつけもあり、評価問題もたくさん5段階で評価できるような仕組みになっているという教科書です。

最後に、B社です。

こちら、アイコンが工夫されてるなどのこともありますが、山陰地方に関わるジオパークの紹介がしてあったり、プロフェッショナルというコラムで、理科に関する職業が紹介されていたり、この教科書も文字が大きくて端的な表現で説明文がしてあり、内容が履解しやすいような工夫になっているというふうに感じました。

以上でございます。

会 長：それでは、調査報告いただきましたけども、質問があればどなたからでも結構ですのでお願いをします。

会 長：L社のいわゆる分量っていうのが、さっきおっしゃったように非常に設定少なくしてありますよね。

特に2年生3年生は10時間以上、他の会社のものよりは少ない設定になっているんですけども、いわゆる学習指導要領が求めている内容っていうのは網羅されていると思うんですが、軽重というか、そういうところって、どういうふうにとられているのかっていうことは分かりますか。

調査員：教科書会社のねらいまでははっきり読み取することはできませんでしたが、実際に授業して探究活動をすると、ものによっては非常に深まっていったり広がっていったりして、予定の時間よりも時間がかかる観察実験などがありますので、そういう意味では、重点を置いて、探求に取り組めるゆとりがある、作り方。ただし、その軽重は、授業者が少し工夫をしないといけないという部分は否めないとは思いますが。

会長：少ない分量であるがゆえに、指導計画立てる上で、指導者側の意図というか、深めたいところに、ある程度の時間をかける余裕があるっていうですね

調査員：それは、魅力だと思います。

あと、まとめの時間をじっくり取れるとか、あとは家庭学習との繋がりが必要だと思いますけれども、それによっても、本当は他社のでも工夫は可能ではあるとは思いますが。

委員：どの教科書もなんですが、選定とちょっと合うかどうかかわかんないんですが、非常に丁寧で詳しいなというところで、実験方法からも図があって写真があって、結果をまとめるグラフとか表とかも全部あって、そしてページをめくるとまとめまであってということで、なんて言うかな、実験をしなくても、変な話、結果が見られるし、全てがっていうか、そうでないこと、書くところがある教科書もあったんですが、ものすごく丁寧で、何ていうか、実験があるやつは、まず実験のねらいがあって、そして予想を立ててやってみようでやって、結果どうだったって誤差もあったりして、この結果からってまたそういう流れをイメージするんですが、それをイメージしなくても、教科書があれば、ここに実験道具なくても、全部見えちゃうっていう、見えすぎちゃうところがあって、そこら辺は何か教科書で違いがあるとか、大体皆同じような、そういう今はパターンなのかっていう。

1つは、いわゆる詳し過ぎるといって、学習内容が。

調査員：適切なお答えではないかもしれませんが、やはり紙面で見えるものと、実際に身の周りにいる友達と実験計画を立てたり、実際の器具を使ったりしながら実験して、綺麗な結果が出ないことはもちろんたくさんあって、出ないならなんで出ないんだろうといいですか、そういう実体験を踏まないとわからないところというのは、現実にはあります。

ただ、理科としては、どの教科書もそうですけども何をねらいにして、そこから何を結論づけていくかっていう流れそのものは、1つ1つこの流れに沿ってやっていく必要があるんですけども、全部最初から後ろまで見ておいて、スタートするってことは現実にはしていないのが現状です。すいません説明にならないかもしれませんが。

委員：詳しいなと思ってですね、今そこまで詳しくしてっていう感じなのかなって思ったんで、全ての教科書は大体すごく詳しかった。

調査員：そうですね。

やっぱり写真に特化していったりするとこういう形になっていくんだろうということはあると思います。個人的に私は昔からこうなっているというような認識はありますが、確かにより丁寧になっているかもしれません。

委員：本当にたくさんの教材研究していただいて大変だったなと思います。ご苦労さまでした。

その中で、結論としては、Lの方がいいだろうということで結論付けておられるんですけども、や

っぱりいろいろな各社が特徴を出している中で、基礎的・基本的な学力が、やっばつけられる本が一番いい、ベストだろうという調査委員としての意見だったということによろしいんですね。

調査員：そうですね。

委員：例えばなんかは、Web化されて非常にすごい魅力はあるけども、というご意見もあったんですけども、最終的にはやっぱり、色々あるけど、うん、そう基本的なところが分かり易いのが一番よからうという感じだったんでしょうか。

調査員：その部分は確かにあるんですが、2次元コードの工夫が非常に他社に比べて高いというところが、我々の一番、優れたと判断した内容で、その次が探Qシート、自分で探求の道筋を描いていくという工夫がある、最終的に3つ目として基礎・基本の定着に向けてというところの順番です。

委員：ありがとうございました。

会長：最初に説明された3つの教科書会社のものっていうのは、本当にそれぞれ特徴が大きいと思います。先ほどの中にもあったんですけど、現在使ってる教科書はA社のものであって、それよりLが、良いんじゃないかという結論だと思います。地域性からすると、出雲市の学校の中には、Eの教科書の方が、もしかしたらいいのかもしれないなど。外国ルーツの子がたくさんいるからEがいいというわけじゃなくて、その他の日本ルーツの子にとってもEの方がいいかもしれないと思って確かに私も見ましたが、この翻訳の部分は優れもんだなと思って見さしてもらいました。という中でこの3社っていうのを、どう見て順位付けをするのかっていうところがやっぱ、決め手というか、現行のよりもLがいいと。そこにEが割ってわってはいれるのかどうかみたいなのが、どういう人の評価になってLなのかということがわかるといいなと。

調査員：そうですね。

もろもろの現状を考えると、各学校に揃っている実験道具であるとか、これまでの理科教員がやってきた、使ってきた教科書の流れが、しみついているとか、そういうところかというと、間違いなくAだというふうに思うんですけども、実際にこのLの教科書を見てみると非常にデジタルコンテンツが、群を抜いてといいますか、導入の仕方の動画は非常に子どもの興味を引く、まず入口に入ってきてもらうということが大事だということを思うと、どちらもその写真も映像も優れてはいるんですけども、そういう意味で、ちょっと頭1つLの方が抜けているのかなということと、探求の活動をどうやって推し進めるかっていうのは理科教員のずっと、今、この学習指導要領変わってからのすごい課題になっていて、教科書とか言うほど、教科書に載っているほど全ての単元、節で探求活動ができるわけじゃないんですけども、その中で4つほどギュッと絞って探求の活動ができるシートまで入っている、各学校グループでの話し合いをしながら記入していくことで、学び始めと学び終わりの自分の変容がわかるという意味の工夫モデルという意味でもLの方が、工夫があるというふうに感じました。

会長：Eの方は、その特徴を外したらそこまでではないということ？

調査員：そうですね。理科の学びというところであればその2社には、ちょっとこう魅力が届かないなという感じがありますが、最終的には全てデジタル教科書に変わっていくっていうことを思うと、この取組は本当に、さらに違うところに飛んでいける工夫も他社もなくはないんですけどあるので、そういう意味では未来の教科書なんだろうなあという感じを受けました。

会 長：いかがですかね。よろしいですかね。
代表調査員の方、大変お世話になりましたありがとうございました。

英 語

会 長：次、すいません、お手元には地理・地図と書いてあるかもしれませんが、英語の方を先にさせていただきますと思います。
英語の方の準備をお願いします。

会 長：それでは順番を変えさせていただいて、教科、英語です。
調査資料は35ページからになります。
では、代表調査員の方、よろしくお願いします。

調査員：失礼します。

先日のところで3人の調査員の方で調査をしまして、3つだけ、これは優れているんじゃないかという教科書がございましたので、そこを中心に紹介をさせていただきたいと思っております。

まず、Aの教科書です、Aの教科書をご覧ください。

Aの教科書においては、総括のところにも書いてございますけれども、まず単元のゴールが明示されております。

この単元のゴールというのは、例えば2年生では、2年生のある単元では、海外との生活習慣や文化の違いを知り、とるべき行動についての考えを知ることができるというのが、単元のゴールになっておりまして、それが明確に単元の最初に示されております。それを基にして学習することになります。

ですので、生徒の方は見通しを持った学習ができるようになるのではないかなと思っております。その単元を終えたところで、ユニットアクティビティと言われる、まとめの学習が各単元ごとに準備されております。

例えばこれも例を1つ挙げますと、取り入れたユニバーサルデザインを伝え合おう、というようなグループ活動が、準備されております。そのグループ活動のユニットアクティビティで使うような文法項目とか、内容とかが、その各ユニットで勉強するということになっております。

その点が、この教科書を特に優れているのではないかなというふうに考えております。

また、特に学年が上がるに従って、SDGsの題材ですとか、その多様性とか、国際社会における重要な課題と関連のある点が優れているというふうに考えております。

例えば、2年生でいえば世界遺産について題材が取り上げられていたり、或いは3年生では、絶滅危惧種ですとか、防災について、或いは偉人ですね、世界の偉人について題材が取り上げられていたいと、特に学年が上がるに従って、単に自分の身の回りのこととか、自分の住んでる町のことだけではなくて、世界に目を向ける、そういうこともできる教科書ではないかなというふうに考えており、その点が優れている点ではないかなと考えております。

また、デジタルコンテンツがかなり充実をしております、英語ですと、単語とか、文章が、QRコードから読み取れてそれが音声で流れてくる、或いは、それぞれの文法についても説明が加えられている動画が見られますので、そういうことをすることによって、個別学習も1人で家で復習をしたり、或いは放課後、自分で勉強したいと、そういうこともしやすい教科書ではないかなというふうに考えております。

続きまして、Dの教科書に移りたいと思います。

Dの教科書は、例えば、3年生では、単元が7つ準備されているんですけども、単元の間に、3年生では2つだけ「Our Project」というような活動が準備されておりまして、それは3年生の1例でいくと、ポスターセッションをしましょうとポスターを見ながら、文章を見ながら、これについて説明をしたり、それについて、後で質問したいという活動をポスターセッションとい

うんですけれども、そういうポスターセッションをできるようになるために、単元の終わりに、いくつか「Step Our Project」というような活動が組み込まれておりまして、それをこのポスターセッションに向けては2つ、ステップワンとステップツート、2つのステップが準備されておりまして、それを学習することによって、ポスターセッションの活動が取り組みやすくなるというふうになっております。

先ほどの教科書は各単元ごとでしたけれどもそれが割と大きな単元のくくりで、いくつか準備されているというところが、この教科書の特に優れているところではないかなと思います。

また、この教科書においては、「CAN-DOリスト」というのが後ろの方にございまして、このプログラムごとの学習到達目標ですね、例えば、嬉しいと思っていることについて聞いてわかるとか、読んで分かったか伝えるとか、それ、それができましたかっていうような、スモールステップで学習が積み上げていけるような「CAN-DOリスト」が作られておりますので、その点も優れているところではないかなというふうに考えております。

最後もう1つですが、Iの教科書についてです。

Iの教科書をご覧いただければと思います。

Iの教科書については、総括の方に書いてございますけれども、その内容がストーリー性があると、各単元がいくつか、各学年単元がございましてけれども、その単元を貫いて1つの物語になっているので、1年生の方から順番に読んでいくと、次どんな話になるかなというふうな、生徒が興味を持って読み進めていくことができる教科書ではないかなと、他の教科書のストーリー性のある教科書はありますが、どこかで、全く別の話題になっていたり、突然違う人が出てきたりというようなこともあります。基本的には、登場人物が4人おりますけれども、その4人の登場人物を中心に物語が進んでいくというふうな採用構成になっておりますので、生徒からしても、この先どうなるかなというふうな、ちょっと先が読みたくない、先を興味を持って英語学習に取り組める教科書の1つではないかなというふうに考えております。

それから、この教科書の特徴としては、一番最後のところに巻末ですけれども、本文とは違うところに、学び方ガイドというものが準備されております。

これ学び方ガイドというのは何かというとですね、例えば、スピーキングとか、リスニング或いはライティングの、その学び方が日本語で書いてあって、こういうふうなことをすればスピーキングができるようになりますよというふうな説明がしてありますので、それをもとに生徒が自分で勉強を進めることが、できる。また、英語の仕組みみたいな英語の分の構造等も詳しく説明がしてありますので、そういうものを見ることによって、生徒たちは1人でも学習に向かっていきけるのではないかなというふうには考えております。

それから、この教科書にも、先ほどのDの教科書と同じように、その単元で、それまでの単元で学習したことを活用できるような複数の技能を統合した、例えば、読んだことを他人に伝えとか、聞いたことを相手に伝えとか、そういう単純にはそうですけども、4の学習したことを活用できる複数の技能を統合した言語活動があるのもこの教科書にもそういう機能がございまして、子どもたちは4技能を総合的に学習できるのではないかなというふうには考えております。

以上、先日の研究調査員3名で調査をした結果、先ほど言いました、AとDとIが特に優れた教科書じゃないかなというふうになりますので報告させていただきます。

以上です。

会長：一応、6社のうちで3社ということでしたけど、この3社の中では、どの教科書が一番いいんでしょうか。

調査員：これ正直ですね、意見が割れまして、結論の出ないところがあったんですけども、2人の調査員は、先ほど一番最後に言いました、Iの教科書が、ちょっと平易な文章を結構使っておりますので、分かり易いので、特に1年生ですね、1年生の教科書においては、平易な文章を使っておりますので、或いは身近な内容が多くございまして、使いやすいのではないかなということを、思っております。

私は、個人的な意見で大変申し訳ございませんが、私はAの教科書がよいのではないかなというふうに感じました。
先ほど言ったような各単元に、4技能を統合したような活動があるのが1つと、やはりデジタルコンテンツが充実しているというところは、すごくこの教科書に優れているところではないかなというふうに感じております。
なので、大変申し訳ございませんが、これが一番いいというのがなかなか出ませんで

会 長：今使っているのは、A社ですかね。

調査員：A社です。

委 員：ちょっとお聞きしますが、A社の方が特徴的なのがデジタルコンテンツと、それから各単元のゴールが示されているということ、それから、取り上げている内容が現在の課題に即しているというところが特徴的だと。それから、D社の方は、4技能を使った活動ということでスモールステップ等もあって、それから「CAN-DOリスト」においてもスモールステップでっていう形で特徴的だと。
それから報告されたところで最初に耳に飛び込んできたのが、ストーリー性があって、単元をやっていくという興味関心を持って、その学年を通していけるというところ。

調査員：3年間になります。

委 員：3年間ですか。

調査員：3年間こうずっと1つの話が繋がっていきますので。

委 員：そういう特徴があって選びきれないという形だったんですが、子どもたちが学習していく上で、今の特徴それぞれあるんですが、聞き方変えると、どれが一番英語を学んでいく上で、教科書を使っていくんですが、どれが一番その特徴の中で、今の子どもたちを教えていく場合、大事なかなあっていうところは何かありますか。

調査員：私の私見でよろしいですか。

委 員：もちろん、構いません。

調査員：個人的には、先ほど一番最初に紹介させてもらったAの教科書ですね。Aの教科書、その単元の最初に、この単位でこんなことを目標にして勉強しますよってのを明示されて、一番最初のページに、ご覧いただければわかると思いますけど、こんなことができるようになるという目標がありまして、その目標をもとにしてユニットアクティビティというのが構成されておりますので、ある程度子どもたち自身も、この単元をこんなことができるなといいんだなという見通しを持てたり、或いは、評価する方としても、最後の単元が終わった時にこんなことができるといいよというのを伝えやすいですし、それから評価する上でも、最後の単位でこんなことができればユニットアクティビティができればその単元は一応評価できるということに繋がっていきますので、個人的にはAの教科書がすごい優れてるんじゃないかなという感じはしております。

委 員：分かりました。ありがとうございます。

会 長：他にありますか。

会 長：小学校で使ってる教科書を、会社のものと、中学校で使うものとか同じがいいのか、違ってでもいいのかっていうそういう、ことについては、何か話があったのかっていうこと等なかなかそうそれは教科書の調査研究とかでは難しいのかもしれないですが、少なくとも今おっしゃったこの3社のものの中で小学校とのその繋がりにっていうのを、きちっと取れてるという点でいくと、どれなのかっていうのをちょっと教えていただけますか。

調査員：先ほどおっしゃいました小学校ともちろん連続性がある方が、もちろん教科書としてもいいと思います。

ただ、正直、小学校でやっている活動と中学校で新たにやるかとちょっと違いますので、小学校どちらかという話す、或いは聞く、活動をメインにやってるはずですので中、学校になると今度そこに呼んだり、文字を見て読んだり、或いは文字を見た文字を見て書いたり、それを覚えてテストしたりということも加わってきますので、なかなかちょっと難しさが中学校ではまた新たに出てくる気はしますけれども、ただやはり、先ほどのAの教科書は、1年生のAの教科書を見ていただくと思えますけれども、なかなかその辺の、その小学校と中学校のその連続性ってのはなかなか難しさもありまして、中学校の教員からすると、小学校で例えば単語についてもどこまでやったかなみたいなのが、ちょっと曖昧になってるところは正直ありますけれども、Aの1年生の教科書を見ると、小学校で習った単語っていうのが、各ページの右のところに、小学校の単語というふうに書いてありますので、これ小学校でこれやった単語だっていうのが、分かりますのでそういう点では、小学校との、連続性という点でも、の教科書割と、優れているんじゃないかなという気はしております。

Iの教科書においても、1年生の初めのところで小学校で習った事項が配置されていますので、これ小学校でやった内容なんだなっていうのが、教える側も、或いは、習う側も学習者の方も、これ小学校でやったねってのをもう一度再度確認をできますので、その点では、だんだん小学校との連携も教科書の中で取れてきている気はしております。

委 員：ちなみに今まではずっとAの教科書を、採用されていた。それを変わるとすると、先生方もまた教え方がちょっと変わってくるとか、そういうところがありますか。

調査員：出てきている単語も違ったりしますもので、一応単語ってのは大体決まっておりますけれども、使う単語はある程度ちょっと変わってきたり、教科書の内容によって、例えば絶滅危惧種の話であると、それにみあった絶滅っていう単語が出てきたりしますものでやっぱり教科書によって、特徴がありますもので、やはり続けて使うのも1つの方法だとは思いますが。

迷いなく或いは、教える側も教えられる側も、学習者の方も続けて、混乱は少ないかなという気はしております。

委 員：単純な質問なんですけど、Iの教科書のストーリー性、3年間と言われましたが、今回これ変えた場合は、3年生は1、2、3部作の3作目から見るという、読むという形になるということ？

調査員：そうなりますね。

委 員：1年生は、新1年生は、1一作目から見ていけるけどっていう形ですね。

調査員：そうですね。

委 員：分かりました。そこもちょっと考えないと。
それ言ったらもう、変えられないんですけれども。

会 長：一応その代表としてはですよ、色々意見は委員さんの中であつたということであるんですけど、子どもたちの実態とか、指導者側の考え方というか、授業の組み立てとか、色んなことを考えたときに、この3社の中で、今どっちかと話題はAかIかみたいなのところになっていると思うんですけど、そこら辺りどういうふうに評価されるのかなと。

調査員：先ほど言った、小学校からの連続性ですとかその学年が大事に変わってしまう、途中で変わってしまうってところもちろんありますし、Iを勧められた先生方の意見としてやはり、教える側がなかなか1年生で、結構情報量が多いものですから、なかなか今使ってるA社の教科書はですね、現行のA社の教科書はなかなかこう時間がかかるということはおっしゃいますね。

なかなか時間がないと、英語の場合週4時間で140時間の中ではなかなかこう収まりがつかないと、小学校のところの復習もしないといけないし、なかなか難しいという意見も正直ございます。ただ、何を最優先に考えるかっていうふうに考えると、さすがにこの3年生で先ほども言ったようにA社の教科書はやっぱりグローバルな視点で、その防災のことで、今、昨今話題になった防災のことですとか、世界遺産のことですとか、そういう社会に目を向ける、もちろん英語を勉強するための教科書なんですけども、英語を勉強することを通して世界と繋がっていかれる、社会と繋がっていくこともできると思いますので、そういう点では、Aの教科書というのは、ずっと私が個人が使い慣れているというところも、もちろんあるとは思いますが、Aの教科書をやはり一番押したいなと私は思っております。

逆に、AからIに変えたときに、おっしゃいましたように、そのストーリー性があるとかちょっと教えやすいってということが理由になると、ちょっとどうかなのという向きもあり、やはり子どもたちの力をつけていったり、伸ばしていくのが、教科書の役目だと思いますので。

会 長：分かりました。大体、意向は分かりました。

会 長：では他に質問よろしいですか。

では、代表調査員の方、大変お世話になりましたありがとうございました。

数 学

会 長：では次、数学になります。

それでは、教科、数学の方に移らせていただきます。

代表調査員の方、よろしくお願いします。

では、説明の方をお願いします。

調査員：それでは説明させていただきます。

よろしくお願いします。

それではですね、まず3人の調査員が私含めて3人の調査におりましたけれども、3人とも全員一致で、Aを、推薦することになりました。

まず、選定に必要な資料のAのところをご覧いただきたいと思います。

まず1番目の内容、程度分量についてなんですけれども、まずこのAの数学の教科書では、最初に巻頭のところでですね、この本の使い方について詳しく記載してあります。

それから、併せてですね、例えば、1年生の教科書で見ますと、4ページのところに、大切にしたい数学の学び方というところが記載してありまして、非常に最初の導入のところが丁寧だなというふうに、3人とも感じたところでございます。

それから、あと、生徒が見通しを持ってですね、学習するためのポイントが丁寧に記載されてある。

これは、この1年生から3年生まで、2ページから10ページまでのところに、そういったところが丁寧に記載されているというところが、このAの教科書のポイントかなと思っております。

それから、教科書の所々にQRコードがついておりまして、デジタルコンテンツにつなげるところ、

或いは巻末にあります学びのベース、或いは、補充問題っていうのもあるんですけども、そういったところで、一人一人の学習状況に応じた取組ができるように工夫されているというところが、このAの売りではないかなというふうに思います。

それから2つ目ですけども、2番目の題材の選択や構成等についてなんですけど、例えばですね、1年生の教科書、Aの83ページをお開きください。

そこにですね、棒の本数を求めてみようということで、こういうふうに、これのネタがですね、あらず一つと続いていきます。要は、ストーリー性のある、題材構成で、導入部分で生徒が疑問を持ってそういった疑問をつなぐような題材になるように、そういうふうに設定してありまして、この題材本文の中で解決したり、さらに深めていくような問題構成になっている、そういうところがこのAの教科書の工夫された点ではないかなというふうに思います。

1年生の教科書ばかり言って申し訳ないです。1年生の教科書の13ページのところから18ページまでのところはですね、いわゆる整数の性質っていうの扱っております。

よく見られるのが、大体1年生の数学正の数、負の数の計算で入っていくんですけども、こういうふうに整数や自然数をこのAには扱った上で、数の世界を広げていくような学習内容の配列がなされているというところが、工夫された点ではないかなというふうに思っております。

それから3つ目の興味関心への配慮等なんですけれども、このAでは、深い学びのページっていうのがあります。この深い学びのページのところでは、日常生活とか、社会事象に関わる問題を扱ったりとか、そういうふうに知識、技能を活用しながら、問題解決の進め方について意識できるように工夫がなされています。

それから、例えば、1年生の教科書で言いますと83ページをお開きください。

これ先ほど見てもらったところなんですけれども、この83ページの、ここが深い学びのページなんですけども、ここの右側のところに紫で塗ってある、囲んであるところがありますけれども、これがこの教科書のすごくいいところで、まず、問題を掴むというところからスタートして、次に見通しを立てる、それから問題を解決する。次のページに移ってですね、真ん中のところに振り替える。そして最後深める、というふうに、教科書を見たら学習の過程がしっかり可視化できる、そういうふうな工夫がなされているというところが、このAの教科書の売りではないかなと思います。それから、導入部分だったり、扉の部分でですね、全国各地の写真を取り上げていてですね、生徒の興味関心が高まるような工夫がなされています。確か1年生の、空間図形のところだったかと思うんですけども、今のサンドミュージアムの写真が191ページですね、1年生の数学の教科書の191ページのところに、載っております。こういうふうに、地元の、自分たちの県の写真が所々取り上げているというところがあります。

それから4番目、教科の特性、それから地域の実態や課題への適合等についてですけども、学びを振り返ろうというところや、或いは、章の振り返りレポートだって後半のところなんですけれども、ここでは身の回りの事象とかですね、そういったところに関連づけて考えさせたり、或いは学習内容を振り返ったりできるように工夫がなされています。

それから、数学の目で振り返ろうというところもありまして、ここでは、考え方の共通点が感じられるような工夫がなされています。

ここに振り返りの充実によって、生徒の学びを深めたり、或いは主体的に学習に取り組む態度の評価につなげることができるように工夫がなされています。

それから5番目のですね、各教科等及びそれから実生活との関連についての工夫なんですけれども、これ1年生から3年生までSDGsに関連する問題が取り上げられています。その単元全体を通して、このSDGsの問題を解決できるように工夫がなされていると。

例えば1年生の場合ですね、環境と伝統文化と、それから人権福祉、それから防災安全について、SDGsに関連した問題が取り上げられています。それから、他の教科と関連がある場所にはですね、他教科リンクっていうのが、ついています。教科書のところに印がついていて、そこを読み込むと、他教科にどういうふうに関係しているのか、教科横断的な学習ができるような形がとられているということになっています。

それから最後、数学かける仕事っていうページがあります。例えば、1年生の教科書で言いますと、

112ページをお開きください。

ここでは、スポーツ栄養士の方の仕事の内容が出ていますけれども、それ以外にですね、マーケティングアナリストだったりとか、気象予報士の仕事が扱われてまして、実生活における数学の有用性、そういったところが、実感できるように工夫されています。

それから、6番目その他のところですが、やっぱり幅広い題材を扱っていて、様々な教育課題に課題意識を持てるような工夫、配慮がなされています。

例えば小中高連携という、教育課題に対しては、虫眼鏡マーク、中に虫眼鏡マークの問題がところどころなんですけども、この虫眼鏡マークの問題では、小学校、中学校の繋がりを意識させた問題が、或いは発展マークの問題では、中高連携の意識させる問題が用意されていて、より小中高の円滑な連携が工夫されているというところがあります。

それから、教科書マップというのがあるんですけど、これはデジタル紙面を使って47都道府県のそれぞれの題材が探せるように配慮がなされているというところで、自分の住んでいる地域の題材を使った授業ができますので、そういった授業で、生徒たちは身近な題材を通して、数学への興味関心が高まったり、或いは数学の目を通して、生徒たちの郷土愛を育むことが期待できるのではないかと思います。

それで最後、総括ですけれども、非常に類似問題だったりとか、既習内容の振り返りがすごく豊富で、個に応じた学びができるように工夫されているっていうところが、このAの教科書のポイントではないかなと思います。

一番優れているのがですね、この教科書の各ページにデジタルコンテンツ、全部で1752もあります。

他の教科書にはそこまでないです。このデジタルコンテンツはQRコードに読み込んで、子どもたちが活用できるようになってます。このデジタルコンテンツってどんな中身かっていうところなんですけども、いわゆる問題がわかりやすくなるように、シミュレーションだったり、或いは、問題場面を体験できるようなアニメーションが用意されています。

それから、フラッシュカード、子どもたち結構これ喜ぶと思うんですけど、フラッシュカードの問題も結構豊富に用意されていますので、非常にデジタルコンテンツの中身もすごく考えて用意されているんじゃないかなと思います。

そういったところで、生徒たちはですね、主体的な学びができる、そういったところが、この教科書の特に優れている点ではないかなというふうに思います。

このAの教科書を使うことでですね、生徒の個別最適な学びができるというところと、或いは場面によっては、共同的な学びができる、そういったところが充実できるのではないかなと思います。

ひいてはですね、この生徒一人一人の主体的、対話的で深い学びの実現が、期待できるというところが、このAのポイントではないかなというふうに思いますので、ぜひ、このAの教科書採択していただけたらと思います。

すいませんちょっとわかりにくい説明で、申し訳ないですけど、何かご質問がございましたらお願いします。

会 長：一応、優れた教科書ということでA社のものを中心にお話いただきましたけども、他の会社のものとの比較の点でのご質問でもいいですし、他ではどうなってるんだというようなことでも結構ですので、自由にご発言いただけたらと思いますけど、いかがでしょうか。

委 員：今、1社という形でA社というところですが、数学で数値とか、それから例題とかで、難易度が大幅変わると言うんですよ。今回たくさんの会社があるんですけど、このA社は難易度でいうとどうか。

調査員：ちょうど真ん中ぐらいかと思います。

委 員：難しすぎず、簡単すぎず、真ん中ということ。

調査員：真ん中ですね。逆に難しいのがですね、確か、N社、よく高校の数学とかの問題集でよく名前が挙がっていますけど、難しいですね。

委員：でいくと、これは真ん中

調査員：真ん中です。

委員：しれと、L社が、よく算数、数学ではよく聞く名前なんですが、L社とA社で比較したときに、やはり違いがあって、やっぱりさっきA社がいいと言われたけど、その比較ではやっぱり違いがあったと。

調査員：そうですね、やっぱりデジタルコンテンツの豊富さでもうA社に軍配が上がる。最初に今日言いますと、A社をやめてL社にしようかなっていう最初声もあったんです、正直。でもやっぱりいろいろ調べてみると、やっぱりA社だよねっていうのが3人の共通した意見でした。

委員：ありがとうございます。

会長：逆にL社にいけないのは、デジタルコンテンツだけの問題ですか。

調査員：そうですね。

それと、やっぱりA社の方が、すごくなにかこう丁寧に、できているというところですね。L社が雑だとは言いませんけれども、その点が、A社との、違いもあるかなと思っています。

委員：親からしたら数学って子どもが結構苦手っていう意識があって、家にプリントとか持って帰っても分からん分からんって。親に聞かれてもわからんというか、言うんですけど、そういうところを教科書みれば多分、ちゃんと見ればわかると思うんですけど、デジタルコンテンツでよりわかりやすく、子どもが見ても、それを見て説いていけるような感じになっているっていうこと。

調査員：そうなんです。委員がおっしゃったように実はデジタルコンテンツの中にヒント集っていうのがあるんですよ。なのでちょっと苦手な子は、そのヒント集を見て、QRコードを読み込んでですね、それで、解いていくこともできますので、これがちょっと他の教科書会社との違いだなと思っています。

委員：国の調査とかって、数学の問題見ても、これって本当に数学の問題かというような問題あるんですけど、言い方変えると、日常生活の中に数学が生かされてるのかっていうことが理解できてないと解けない問題というか、単純にその計算問題でできればいいとか、式がどうとければいいとそういう問題っていうのはあんまりこないんですけど、その、教科書の作りの中で、さっきの例えば、A社っていうのはそういうところをかなりこう研究されて作られてるのかとか

調査員：そうですね。

委員：この調査の中にも、例えばN社、全国学力学習状況調査で課題のあった内容が丁寧に扱われているみたいなこともあるんですけど、この辺りはこのA社ってのはどうですか。

調査員：私がそこを書いてないだけで、実はA社も全学調の結果を受けて、このつまりきやすいところについてしっかり取り扱っていますので、大体この巻末に用意されている補充問題のところあたりは、大体、全国学力学習状況調査で、1年生の教科書で言いますと、270ページから280ページ辺りまでのところについては、やっぱり全学調の結果を受けて、問題が用意されているということに

なっています。

委員：分かりました。

会長：他はいかがでしょうか。

それでは追加でないようですので、代表調査員の方、大変お世話になりました。

会長：ちょっと休憩をしたいと思います。時間はちょっと押してありますが、35分からスタートさせてもらえますでしょうか。

～ 休 憩 ～

保健体育

会長：では、再開をさせていただきます。

では最初は、教科、保健体育でございますので準備をお願いをします。

資料の方は28ページからとなります。

代表調査員の方、お願いします。

調査員：よろしくお願いします。

それでは保健体育の方の説明をさせていただきます。

今回、4社ということで調査をさせていただきました。

それぞれについて、この後、簡単にご説明をさせていただきたいと思います。

これは教科書A社、B社という言い方でよろしいですか。

会長：そのようにお願いします。

調査員：それではまず、保健体育で言うA社のところからご説明をさせていただきます。

この教科書の特徴的なところで言うと、色を非常に効果的に活用がしてあるということが言えると思いますし、あとは学習の流れを理解しやすくすることとか、学びをサポートするための多彩なQRコンテンツが用意されているということが特徴的かなというふうに思っています。

各章の初めのところにQRコードが載っておりますけれども、その章を学ぶ上で関連する動画がそこで見られるようになっていきます。

興味を持たせるという点でも非常にここは工夫されているところかなと思っています。

それから、教科書で言うと例えば96ページあたりを見ていただきますと、そこには一番右下のところ97ページの右下に広げるというような言葉ありますし、その上には活用するというような言葉がありますが、こういう視点を設けて、関連資料を載せたりするってところで生徒の興味関心は非常に引けるような工夫がされているんじゃないかなというふうに思います。

全体的に言うと文字も大きく、見やすく適量かなあというふうには考えています。

それから少し後ろになりますが177ページあたりからは、この教科書の特徴的なところは、この巻末スキルブックということで、中学生が保健の授業の中で確認をしたり、実際の現場で使えるものが、ここの巻末スキルブックというところに、写真であったり図示で載っているというところなどは、ちょっと他の教科書とは少し違った形での構成がなされているというふうに考えています。この教科書でいうと、やはり資料を参考にしながら、学びを進めやすい教科書ではないかというふうに調査をいたしました。

続いて、B社の教科書でございます。

この教科書は、他のものもそうなんですが非常にイラストが多く、写真も載っておって、動画の視聴ができるようになっていて、生徒の視覚に訴えるものが多いかなというふうに思っています。

例えば、本文中で言うと、30ページになりますが、30ページの最初の体の発育と書いてある、そこに10行ぐらいの文章がありますけれども、この教科書は中学生の発達段階を考えて、文字の途中で改行しないようにするような工夫がされています例えばそこでいうと、上から4行目の乳幼児、点、次、本当は文字が入るんですが、ここは次の行に載っているというような形で少しそのような形で配慮がされている、そういう会社であります。

それから、14ページであるとか148ページあたりを見ていただくとわかりますが、学習の用語とか重要な言葉が、それぞれ章の最後に全てまとめてあって、とにかく、知識の定着をさせるというポイントがこの教科書に現れているかなというふうには考えています。

その他、始めの方ですが口絵の17ページですけれども、これ1時間の学習の流れが載っていますが、このような形で学び方が、この1時間こんなふうにしていくんだということが、まず全体にわかるように示されているということもあります。

それから52ページあたりですけど、ここには学びを生かそうというページがあるんですが、これ各章ごとにありますけれども、思考力を深めたり表現力を高めたりするという場の設定が行われているという教科書です。非常に使いやすいのかなというふうには思っています。

続いてK社です。

この教科書の特徴的なことは、非常に見開きの配置の仕方が非常にいいのかなあと思っていますし、資料の部分は必ず枠で囲ってあるという工夫がされています。

全体的な構成が非常にいいかなというふうには思っています。

この会社もやはり、生徒の興味関心を引くようなものが非常に載っておりますけれども、例えば口絵の5ページとか、或いはその先の7ページもそうですけれども、今の社会、これからの社会で取り上げるような視点を、やはりここに載せていて、やはりこういうポイントではしっかり考えているというような表示もされています。

それから同じようなことになりますが、例えば96ページにはスマホの習慣のことが載っていたり、それから122ページあたり、今、災害非常に多いんですけどこういった災害のことをこういうもの、或いは最近で言うとコロナウイルスからくる差別とかですね、そういったことも取り上げて学べるような、最近のものをよく取り上げてある教科書ではないかと思います。

それからちょっと他の会社と少し違うところで言うと、学んだことを確認できるように、保体クイズというのが、あります。これはQRコードを読み込むと、その単元とかで行われた、学んだことがクイズ形式で出されるというような設定がされていて、生徒が興味、関心を持ってやれる、取り組むことができるのかなと思っています。

デジタル教材とか、それから役立つサイトの紹介なんかは非常にたくさんされている会社であるというふうに思います。

最後P社についてです。

教科書については、やはり他の教科も他の会社も同じですが、やはり生徒が何か学びたいような、導入、そういったものが非常に工夫されているのかなと思っています。

例えば、これも口絵からですが、1ページにはスポーツの様々な場面が載っていたり、ちょっと飛びますが46ページですね、例えば、一番下の方ですけど、大体、下のところに載ってます情報サブリなんのでいてのが上がってしまして、豆知識が載せてあるため、こういったものを見ながら、知識を増やしていったり、興味を持たせたりというような工夫はされていると思います。

それから、単元の初めによくありますが、導入部分でいうと例えば42ページあたりを見ていただきますと、保健体育を学ぶ皆さんへというようなことで、こういったものがメッセージとして色々記してあったり、或いは学ぶことの利点あたりも載っていたりということがいえると思います。

それから、この教科書のもう1つ使いやすいな、それから学びやすいと思うところですが、例えば46ページ、47ページあたりを開いていただくと、これが1時間に扱う量なんですけれども、例えば①の呼吸器の発達の横に、赤い文字で呼吸器が発達するとは何がどうなることでしょうか、っていう視点が書いてあります。

同じことが隣のページの2番循環器の発達にも循環器が発達するとは何がどうなることでしょうか、つまり、ここでは一体何を学ぼうとしているのかという視点がはっきりとして、授業者も、学ぶ生

徒の方も、視点を明確にできるというところで特にこれはやはり優れているポイントではないかなというふうに思っています。

それから63ページあたりを見ていただきますと、この辺りは学びを生かす、というような言葉で載っていますが、習得した知識を実際の生活にどうやって生かしていこうか、自分で考えたりする、そういうものを表現する場があるというような工夫がされていると思います。

この教科書は全体的に、まず、流れとして関心を高める、それから次は主体的な学びに向かう、次は課題を発見してさらにその解決をする、最後は協同的な学びに入って自分の将来につなげていくという大きな流れが、ここの教科書は構成されておりまして、中学生の段階としては、一番つけたい力から考えておきたい力を、非常にバランスよく、順序よく取り扱ってる会社ではないかなと思っておりまして、構成については特に優れていて中学生には大事な中身ではないかなというふうに考えています。

では以上、私の説明です。

会 長：ありがとうございました。

では4社の比較で今報告をいただきましたけれども、委員の皆さんから質問がありましたら、どんなからでも結構です。

委 員：AからB、K、Pとあって。

ちょっと興味深かったのが現代的な課題ですね。Aでいけば性の多様性とかSDGs、それからBでいけばスマートフォン、それからKでいけばコロナウイルス等も取り上げてあるというですとあって、Pのところでは現代的な課題というのは、何か、あえて書いてないだけで、中には、現代的な課題の取組をしっかりと。

調査員： ちょっと今、特に今回の説明のところは出しておりませんが、教科書的に言うと中身にはそれは、取り扱うような形になってまして。

委 員：分かりました。ありがとうございました。

委 員：特にこの保健の学習に於いてですねデジタルコンテンツの有効性みたいな、どういう場面で使えるものがあればいいのかっていう点では、どうなのかということと、それが4社の中のどのやつに、特にしっかり入っているというか、どう考えられるのかっていうとこだけ聞かしてもらっていいですか。

調査員：これちょっとまた考え方とかですね取り扱いによって違うんですけれども、一応デジタルコンテンツについては、たくさんあればいいかというと、実は、ちょっとやっぱり混乱をしがちなことがあります。

もう1つは、先ほども言ったように視点がはっきりしておるもので、教科書でいうと、例えば、この技術を学んだときにこういうものをすぐ関連があるところに飛ぶんですけれども、実際には、授業の中でも必ずそれを使うわけではなくて、やはり必要な場合は子どもたちが実際自分で調べたりできるような状況がある方がいいかなあというふうに授業をする上では思います。

ただ、先ほど言ったように例えば、Aとか、Kあたり、そういったところは確かに非常に多く扱ってはいるんですけれども、ちょっと私が、一部しか見ていませんけど、必ずここじゃなくていいのになんていうのは、ちょっと感じました、調査をしたときにですね。

それでデジタルをうまく利用するにはやはり授業者が個々についてきちんと見て欲しいというところがあるとすると、必ず今、教科書会社が扱ったところではないところでも十分いけるのかなっていう気はしていますので、そういう点で言うと、使わないものも随分入っているという気がしています。

ちょっと答えになっているかどうか分かりません。

委員：だから、あれば、使う場面や使う人もいるだろうけど、やっぱり、ある程度厳選したものっていう考え方も必要だっていうことですね。

調査員：そうですね。

委員：あとこの指導というか子どもサイドとすると、なんかノートみたいなものって別にあるんですか。保健学習は特にそんなのはないんですか。

調査員：別冊でありますので、これに対応したノートがありますのでそちらに書き込んだり、中には、QRコードを読み込むと、いわゆるデジタル状のノートが出てくるところ、教科書もありますが、ちょっとこれはですね、ちょっとまだ私も使ったことがないので、いいかどうかって言われるとちょっとわかりません。

委員：例えばこのPの教科書にもそういうものは入っているところがあるんですか。

調査員：はい。そもそもノートはどれにも基本的にはついてるような形になると思います。

会長：他にはいかがでしょうか。

よろしいですか。

代表調査員の方、ありがとうございました。

地理・地図

会長：では、続いて地理・地図になります。

最初に地理の方の説明を受けたいと思います。資料は7ページ、8ページになりますので教科書、あわせてお開きください。

では、代表調査員の方、お願いします。

調査員：お願いいたします。

地理分野4社それから地図帳2社の方、説明させていただきます。

よろしくお願いします。

まず最初に、地理的分野の教科書の方の説明でございますけども、4社ともですね、学習指導要領の趣旨に沿った内容だったかなと思っております。

内容的にも、漏れなくといいいましょ、網羅されていまし、基礎的な事項等もしっかり押さえられていました。

ただ一部ですね、ちょっと私どもが県内で採択してない教科書があった関係もあったかもしれませんが、少しなじみのない言葉にゴシックが使われている教科書もございました。

このあたり、慣れてない教員にとって見たら、教科書で教えなくてはならないと思ってしまうときに、授業内容がどうなのかなという心配もあるかなというふうに感じました。

このあたりが資料にも載せておりますけれどもG社、それからO社の方少しそういう傾向がございますのでまたその時に見て行きたいと思っております。

個々の教科書の特色でございますけれども、A社のこのページを開いてもらって結構なんですけれども、一番の特色としましては、図版の間に空間が比較的多くございます。このあたりが見やすいなという感じも受けておるところでございます。

そして、所々に思考ツールの使用というところで、例えば、マトリックスですごいフィッシュボーンチャートといったようなものが使われておまして、子どもたちの主体的な学びに繋がるような工夫がされてるいなということを感じておるところでございます。

それから、4社とも共通な視点で見ておるんですけれども、持続可能な社会の作りということで子どもたちどのような力をつけるのかというあたりで、SDGsについての記述が4社ともございすけれども、このA社につきましては、後半の部分になります。

後半の部分の、271ページのところに、このSDGsに関するマーク、ゴールの目標が定められておりまして、こういうところを意識しながら、子どもたちが学べるというところでございます。逆にこれが後ろの方でございまして他社3社につきましては、どの会社でもいいですけども、表紙をめくっていただきましたそのあとにですね、あるというところで、この辺が大きな違いかなというふうに思っております。

後でまた触れますけれども、こういった持続可能な社会を作りたいということを意識しながら、地理的分野の学習ができるっていう点で他の教科書の方が優れているんじゃないかなっていうふうに感じております。

それから、良い点でございますけど総括も書いておりますけれども、教科書の初めのところにですね、めくっていただきまして、4ページあたりからでございますけれども教科書の使い方の学び方というところで、どのような記述がされているのかとか、これによって資料学習どんな見方をつけるのかといった辺りが明記されてます。

特に6ページの方には、資料を学ぶ5つの見方ということで、地理的な見方考え方をこういうものをつけていって学習していくんですよ、見通しを持って子どもたちは学習ができるんじゃないかと思っております。

これは指導する教員にとっても大きな指針になるものであるなと思っております。それから2社目のG社でございますけれども、こちらの方を先ほど申しましたように、表紙めくったすぐ先にですね、後に、SDGsのゴールが示されているというところは先ほどと同じでございます。

だからこの教科書の特徴としましては、中ほどでございますけれども、大版のこういった日本地図が閉じ込んでございます。子どもたちが日本の姿をイメージしながら学習に入られるという点では優れた教科書かなというふうに思っております。ただ、また後で触れますが4社とも共通なんですけど、領土に関する学習、島根県でございますので、力入れなくちゃならないと思っておりますけども、残念ながらこれ竹島の位置にですね一部かかっておりまして、島が確認できないという点がちょっと残念かなというところがございます。

それから、各ページ、どのページも結構でございますけれども、キャラクターが物を申しております、そういう中で問いを発することで子どもたちの学習意欲を高まったり、具体的な学びに繋がっていくというところで、いい教科書じゃないかなと思っております。

それから地理の学習する際にですね、いろんな日本と異なる文物とか文化等に子どもたちはなかなかイメージを掴みにくいんですけども、裏表紙のをめくっていただきますところに、世界の主な農産物というところで、様々な農産物が載っております。この教科書面白い点としましてはですね、穀物の姿だけじゃなくて、それを収穫する人々の姿が映っております。そこには、服装もあつたりとかそれから人々の、生活をかいま見る色んなシーンがございますので、そういう点で人々の生活を知る、農産物を通して知るという点でも面白いなというところがございます。

3社目の、J社でございます。

こちらもSDGsが冒頭でございます。

ページで申しますと例えば、64ページ65ページあたりを開いていただきますとヨーロッパ州の写真が載っておりますけれども、この辺りと地図の連携しているところが意識されているなと思います。

実はこのJ社っていうのは、地図帳との連携も大変工夫されているなということを感じておりまして、子どもたちがこの写真がどこにあるということを意識しながら、学ぶことで、的な概念ですね、習得することができるんじゃないかなというふうに思っております。

地理的分野の学習、失礼しました、地図上との関連という点ではですね例えば島根県辺り中国地方の学習でどうなっているのかっていうところで、見ていただければと思います。

例えば、192ページあたり、中国地方を、交通網等のところがございますけれども、ちょっと地図帳の方、手に取っていただきましてこの青いJ社の地図でございすけれども、中四国の地図が

載っておりますが、このページが102ページあたりを開いていただきますと、192ページ、上の方にあります山の斜面に広がるみかん畑、愛媛県の八幡浜市でございますけれども、この様子がですね鳥瞰図の形で102ページの下の方に分かれているというところ、この辺り、教科書を使いながらですね、地図情報を使って学習が進めていけるという点での連携がとられているなどと思います。

もう1つ、A社の地図帳もございますけれども、よりこちらの方が、そういう点では優れてるなどということを感じたところでございます。

それから、この教科書につきましては、アクティブ地理ってということで、4つのテーマでの思考の場面がとられておりまして、このあたりも地理的な学習を通して生徒の社会参画の意識を高めていく。社会科といいますって言いますと、公民的資質の基礎を養うというところでございますけれども、そういったこれからの社会にどのように関わっていくのかという子どもたちの意識が高まっていく、そういう仕掛けをされている、工夫をされている教科というふうに思っております。

4社目のO社でございます。

こちらでもSDGsに関するところがございますけれども、表紙のところにあります。

この教科書はですね、さらにめくっていただきました巻頭の3番のところに、道上げで先ほど申しました地理的な見方考え方は何かというところが示されております。

こういう点では、分かり易いイラスト、具体例をとりましてですね、これから学んでいてどんな力をつけるのかということ意識しながら学習に進めていけるということでございます。

それから、思考ツール他社も使われておりますけれども、具体的なこういうふうに使えますよっていうところでは、61ページ、僕にはフィッシュボーンチャートというものが載っておりますけれども、このようなことを変えていくんですよ、そういった例示もされておまして、初めて学ぶ生徒にとって見たら、1年生はおそらく主になると思うんですけども、より、いいのかなというところでございます。

4社終わりましたところで、先ほどちょっと申しましたけど島根県の新たな課題というところで領土に関する学習がどのよう進められているのかということ少し触れてみたいと思っております。

まず最初、お話をいただきましたA社でございますけれども、ページの方、特に竹島に関する部分では、28ページ、29ページをご覧ください。

2枚の写真が使われております。

現状の竹島ではあります。

上の方の写真を見ると構造物が作られている様子が写っているんですが、下の写真がですね、構造物のある島の方から撮っておりますので、自然な形に近い形で断崖に囲まれて確かに地理的な特色がありますけれども、そういった意味ではちょっと不法占拠については掴みにくいのかなという感じをしているところでございます。

それからデジタルコンテンツもありますけれども、このあたりで歴史的な分野とか、公民的分野との関連も図られることが分かりました。

それから2社目のG社でございます。

G社でございますけれども、こちらの方は、先ほどの視点で言いますと、20ページ21ページのところに、掲載されております。

こちら、比較的というか、割と歴史的な経緯を記述したものが多くなっております。地理の教科書ですので、ここまで詳細にやる必要あるかどうかというところもありますけれども、おそらく子どもたちは小学校5年生で社会科で竹島学んできますので、そのあと中学校の1年生で学ぶというところで、概略を掴む点ではこういった流れを知るのも大事な事かなと思っております。

そしてこの教科書の面白いところはですね、21ページ目、上に地図が1つありますけれども、4社のうち唯一ですね、南北逆といいましょうか、南を上にした日本海を描いた地図が載せられております。

これなかなか見慣れない地図でですね、おっと思った感じもするんですが、ただこれが日本にとってどういうふうな意味があるのかっていう点では、どうなのかなという、逆に大陸側から見たら、中国が太平洋に出ようと思ったならこの尖閣諸島とかですね、南西諸島とか邪魔になるとか、或いは

ロシアの方がオホーツク海に出ようと思って太平洋に出ようと大変だろうと思ったら北方領土邪魔になるというふうにいえるかもしれませんが、ここで使わなくてもいいんじゃないかなということ私は思っていました。

3社目こちらです。J社でございますけれども、こちらと同じ視点で言いますと、量に関しては、20ページ、21ページでございます。

こちら写真が使われたり地図も載せていただいております。

プラス、地理プラスというところで昔の竹島の関わりということも記載されております。

それから、デジタルコンテンツの中にはですね、島根県が作成をしております竹島学習リーフレットで使用しております古地図も掲載されておりますので、そういう点では、島根県の学習を進めていく中では、扱いやすい教科書かなという感じもしております。

4社目のO社でございますけれども、こちら21ページ、竹島の地図、それから、松江にあります竹島資料室、さらには東京にございますけれども、領土主権展示室等の記載もされております。写真も掲載されております。

そういった面で日本の課題というところでの取り上げ方がされているな、ということを感じた次第でございます。

続きまして、地図帳でございます。

地図帳は2社、A社とJ社でございます。

手に持っていただきますと、手触りが違うのは、特徴的なのはJ社でございます。

まずはA社でございますけれども、表紙から見ていただきますと、ミツバチのキャラクターが書いてございますが、ある意味大きな特色でございます。

各ページめくっていただきましても、ミツバチが登場しておりまして、ミツバチが下の方でしゃべったりとか、それから地図ですのでパッと見たイメージもあるかもしれませんが、9ページ、10ページを開いていただきますと、立体的にというところで高い山につきましましては濃い茶色をというところで書かれております。海も見ていただきますと、こちらの方ですね、深い浅いがですね、分かり易くなっている、こういった立体的な図で書かれております。

そして、この地図帳でございますけれども、最新の状況についても、例年、掲載をされておりまして、ウクライナ侵攻ですとか、パレスチナの問題に関する写真が掲載されているページがございました。

ちょっと見つけられなくてお見せできなくて申し訳ありません。

今、自然災害が各地で発生しているというところで防災に関する意識を高めるために、教科書の方でもかなりなページを割いて記載されています。地図帳の方でも、この地図帳につきましましては136ページのあたり、自然災害の備えというところの、防災、実際に起こった災害でありますとか、浸水、区域などが、ハザードマップと比較してありまして、こういう点でも意識を高めるのにはふさわしい地図帳なのかなというふうに思います。

先ほど教科書の方では、領土の問題が出て参りましたけれども、地図帳の方でも、最後のところ、171ページ、172ページ辺りからのところに、写真も掲載されております。

各地の領土問題、領土に関する問題があってもどこでも確認できるというところでございます。

先ほど申しました写真がお示しできなかったパレスチナの問題とか、ウクライナの問題ですけれども、これらはもしかしたら公民的分野で扱う内容になるかもしれません。

そういう点では地図帳を地理だけで使うのではなくって、歴史であったり、公民の時間であったりすると良いなというところ、そういう工夫もされてる意識を感じ取りました。

J社でございます。

実はこの地図帳というのは、巻末に綴じてあります資料のページが大変に多くなっております。

私たち社会の教員にとって見たらですね、統計資料ってのは大変大事なものでございまして、ただ、語句を教えたりとか、それからこうですよという知識を伝えたりではなくって、自分たち調べてみる、そういうことを大事にしております。そういう中で、こういった豊富な統計資料っていうのは大変大事なかなというふうに思っております。

それから、これも慣れているからかもしれませんが、どこのページも結構ですが、地図の色

合いってという点ですね、目に入って来やすい、A社と比べていただいたら、ちょっと地図の中ですね、字も少し大きめでございまして、別の子どもが見やすい地図になっているのかなというところでございます。

それから所々にSDGsに関するマークも入っておりまして、教科書同様ですね地図帳の方でも持続可能な社会についての意識をすることができる仕掛けになっております。

それから地理の教科書も申し述べましたけれども、教科書のリンクという点でも、この辺りは工夫されているのを感じるところでございます。

以上、資料の方には、順位をつけるわけでもございませんけれども、優れたもの、特に優れたものというところで記載させていただいておりますので、ご参考いただいて採択いただければと思います。私からの説明、以上でございます。

会 長：ありがとうございました。

地理と地図帳と両方を関連づけて説明いただきました。

会 長：調査研究者としては、教科書と地図帳は同じ会社のものが、よろしいという、意見であると伺っているんですか。

調査員：はい。

会 長：そういうことですね。

調査員：はい。

会 長：分かりました。

会 長：では地理の教科書でも地図帳でも、どちらについてでも結構ですけどご質問がありましたらお願いをいたします。

委 員：1点ほど。

地理の方なんですけど、今、Jの教科書が特に優れているというところで、Aが優れているというところだと、見比べて、いろんな教科でQRコードのことがデジタルコンテンツって出ていて、このJもあるんですけど、大きなところではあるけど、ページごとにというわけではなくて、ここしばらくなくないなっていうところがあったんですけど、Aはほぼマイページあるという、この違いがあるんですけど、ここはどういうふうに判断されたんですか。

調査員：数的にはですね、おっしゃるように、各ページについてA社の方が多いのがございますけれども、その使い方という点ですね、歴史的な分野ですとか、コンビニの関連、そして地図帳との関連を考えたときに、J社の方が優れてるんじゃないかなというふうに考えるとございまして。

委 員：分かりました。

委 員：指導の際にですね、教科書と、地理の場合、教科書、地図帳っていうのがあるんですけど、社会科としてなんか副教材みたいなものって学校では使われてるんですかね。

調査員：学校によりますけれども、資料集を持たせている学校もございまして。

ただ最近の状況としましては、こんだけ教科書ビジュアル化されておりますし、いわゆるQRコンテンツもありますので、今後負担軽減の意味からでもですねこの辺りは検討していく必要があるのかなというふうに思っております。

委員：でもある程度やっぱそういう意味でデジタルコンテンツっていうのは必要なんだっていうことではあるんですね。

調査員：はい。

委員：ただ、さっきの質問で、全部のページ載ってる必要はないのかもしれないという、そうですね。

調査員：はい。

委員：J社の地理のその他の欄でQRで地図帳の該当ページとのリンクというか、それができるということを、これが地図も含めて、J社のやっぱ強いということによろしいですか。

調査員：はい。

委員：A社の方にはそういった感じが受けられないということでしょうか。

調査員：十分にすべてを確認したわけではありませんので、そうも言えませんが、見た感じ、そういったところがあったかなと思います。

委員：分かりました。

会長：他、いかがでしょうか。

よろしいですか。

では、代表調査員の方、大変ありがとうございました。

道 徳

会長：では最後、道徳です。

では、特別の教科道徳について調査結果のご報告いただきたいと思います。

代表調査員の方、よろしくお願いします。

調査員：では、説明させていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

2名の調査員と私の方ですね、短時間ではありましたが、7つの教科書を学年ごとに拝見をいたしました。

調査員との協議の中で出ました意見としては、どの会社の教材も優れていたという点です。

それから、どの会社の教科書も、生徒の興味や関心を引く、色遣いであったり、挿し絵であったり、写真であったり、そういった工夫がなされていて、教材自体でなかなか優劣をつけることが難しいなという印象があり、そういった意見が出ています。

その中ではありましたが、結論としましては、O社の教科書が優れているのではないかという結論に至っております。

その理由としましては、総括の欄に書いてあるところです。

別冊の道徳ノートというものが、この教科書会社にはついておりました。このような形になっています。

他社の教科書会社にも、生徒が記載する記述する自分の考えを書くものはついているんですけども、全ての教材を1つにまとめて道徳ノートという形で、こういうものをつけている会社というのは、この教科書会社だけだったように思います。

これが非常にいいだろうなと思った理由は2つありまして、まず1つ目は、授業者が年間を通して、生徒の成長を見ることができるのではないかという点です。4月にやった教材と、35時間後にやった教材での子どもたちの考えや、そういったものの深まりを、年間を通して見ることができる授業者にとっては非常に優れたものだというふうに思ったのが1点でございます。

もう1点は、これ生徒にとっても非常にいいものではないかなというふうに思います。

ゆくゆく年間を通して授業をして、自分で自分の考えを書いたり、友達の考えを書いたりということが続けていくわけですが、1年間終わったところで振り返ってみると、こういうところが成長したなあと自分で感じられるような、そういうものになっているんじゃないかということで、この道徳ノートがあることの意義というのは非常に大きいんじゃないかということを考え、このO社のものがないのではないかなという結論に至ったところでございます。

その他としましては、教科書の巻頭にあります。

ガイダンスのページがあるんですけど、ここは非常に分かり易くてですね、3年生の教科書でいいますと4ページに当たるところだと思います。

道徳科で何を学ぶのか、どのように学ぶのか、そういったことが非常に明確に示されていて、わかりやすかったというところがありました。

以上でございます。

会 長：では、結論から先にお話いただいてO社のものが、別冊の道徳ノートを含めて優れた教科書ではないかということでございました。

委 員：他社のものについて、何か教材というんですかね、題材としての優劣はなかなか難しいということでしたけど、つくりの中で特徴的なものが他の教科書にあればちょっと教えていただければと思いますがいかがでしょう。

調査員：特徴的なものですかね。

教科書会社によっては、割と新しい題材を取り扱っていたり、最近のスポーツ選手や世界で活躍する方ですね、そういった教材を配置していたりというところはあったんですけど、先ほど申しました通り、題材自体については、なかなか優劣がつけがたいというところが調査員と私の意見でございます。

委 員：分かりました。

会 長：今、別冊の道徳ノートっていう話があったんですけど、それについてでも結構ですから何か質問とかありませんか。

委 員：例えば、O社の2年生の方にしましょうか、2年生の6ページ、成功と失敗というところがあって、道徳ノートの方にリンクしたところでは最初のページですが、ここに教科書の方には、デジタルコンテンツを見ることができる、教科書の中の中身をもっと深く、動画か何か出るのかわかりませんが、こちらの数、ノートの方のQRコードは何が出てくるんですか。その教科書と同じものが出てくるだけですか。

調査員：すいません、ここのノートのQRコードを読んだことはちょっとないんですけど

委 員：教えられるときにどう使われるのかなと思ったもんでして

事務局：ちょっと読んでみましょうか。

調査員：読んでもらっていいですか。

会 長：今の後半の質問にちょっと答えてもらっていいですか、どういうふうに使うのかっていう。

調査員：QRコード。

委 員：もしあったとすると。

調査員：そうですねちょっとこのQRコードのノートの方を読んでないためにですね、ちょっとお答えすることがなかなか難しいんですけども

委 員：じゃあ先にこれを見てからにしましょうか。

調査員：すいません。

委 員：何かこの教科書のサイズが微妙に違いますよね。

調査員：違います。なんか正方形に近いような形のものもありました。

委 員：なんか他のものと比べて、何かありますか。使われるというか子どもの持ち運びとか。

調査員：そうですね、その話は調査員の中からも出たんですけども、なぜこのサイズなのかってのはちょっと、わからないところではあったんですよね。

ただ、小学校の教科書にも、特に低学年は最近は大きいものを使われるというように聞いてますし、どうなのでしょう。

委 員：おそらくこの版の大きさは会社の考えなんだと思うんで、こんだけバラバラなもの珍しいなと思って。

調査員：そういうお話も出ました。それから、挿し絵も写真とか表紙もちょっと特徴的だなあという話も出ていてですね。例えば日本教科書という、こういう教科書なんですけども、委員の方からは、ちょっと何ていうんですかこの挿し絵の表情がちょっときついなあというふうに映ったり、子どもの中ではちょっと違和感を感じる子どももいるだろうなあというお話が出たりしたところです。

会 長：ちょっと、繋がりませんか。
いいですか。

委 員：Oの教科書を今見て、プラスワンというところ、優れていると思うんだけど、道徳ノートがついているというところで、ただ、小学校とか今の道徳ノートを使って、振り返りができるようにして、この中身を見て、表題があって四角があってといふとこなので、何ていうかな、特に付録としてはありがたい付録なんだけど、特にこれがあるから学習がはかどるとか、他に変えられないとかっていうものではないような気がして、普通のノートに今日はって日付を書いて、ここへこれ最初のって言って問いを変えよう、それから問い、それから最後自由な感想っていうことでいけば、このOを一番に押すポイントが道徳ノートというところは、どうかなって思ったんですが。

調査員：はい。おっしゃる通り専用のノートをつつくればですね、それに代用できると思います。
ただ、こういった完全にリンクした形であることに非常に大きな意味があるんじゃないかという話が出ました。

委 員：分かりました。ありがとうございました。

会 長：今ちょうど映りました。

調査員：おそらくこれがノートの方ですね。

— 動画視聴 —

会 長：朗読のようですね。

委 員：教科書のQRコードかと思ったんですよ。
教科書の単元の下にQRコードがあるんで、読んでくれるんだなと思ったんですけど。

— 動画視聴 —

委 員：同じですね。ノートにも同じものがあって、両方できると、ワークシートもあると。
ワークシートの中身は、多分ノートと一緒にかな。ワードで。

委 員：書き込めるようになっているんだね。直接入力できるようになっているんだ。

委 員：同じですね。

委 員：さっきの道具箱って何なんですか。
さっき、ちょっと戻ってもらって、はい。

委 員：シンキングツールとか、心情メーター。

委 員：これだけ使う、ここで使うものというのはどこでも使えるっていうものが入っているわけです。
動くんですか、それ。
ありがとうございました。

委 員：教科書の表紙がちょっと気になっていまして、これ1年生ですけど、これの違和感っていうのはちょっとあるんかもしれんっていうのがあったんですけど。例えば、これって2人で女の子って何ですかとだったとかですね。そういう意味でいくと、このT社なんての両方いるし、P社もそうだし、このO社もそうだしっていうことで、今で言うところの性の多様性みたいなところを、道徳なので、こういうところやっぱり敏感に表紙に反映して欲しいなっていうのがあって、どちらの会社がどういう考えでこれを使っているのかなっていうのはちょっと気になってたんですけど、分かりました。ありがとうございました。

委 員：本当は髪の毛の色とかね、皮膚の色なんかも本当は、何人も登場はさせられないんだけど、少しそういう配慮があってもいいのかなとも思っていたりしました。

会 長：他には、ご質問ありませんか。
では、代表調査員の方、大変ありがとうございました。

会 長： それでは、以上で、研究調査の報告並びにそれについての質疑は終了とさして、いただきたいと思います。

選定協議

地 理

会 長：午前中と同様に、選定の方に入らせていただきたいと思います。
この資料の1ページ目からの順でさせていただきますので、午後の説明の順というわけではないということをご了解ください。
国語は午前中に終わりました、書写、終わりました。
まず、地理についてですけれども、先ほど報告がありましたけれども、J社が特に優れた教科書であるということでございました。
このことについてご意見ございませんでしょうか。
では、意見なしということでJ社を選定することについて承認いただける方は挙手をお願いいたします。

会 長：はい。ありがとうございました。
では、地理につきましては、J社とさせていただきます。

地 図

会 長：歴史は午前中で終わりました。
めくって公民も午前中で終わりました。
16ページです。地図でございます。
2社のうち、教科書との関連性が非常に強いということでJ社が優れた地図帳であるということでございましたが、これについてご意見はございませんか。

会 長：それでは、意見ないということですので、J社の選定について承認していただける方は挙手をお願いいたします。

会 長：はい。ありがとうございました。
では、挙手全員ということで地図、J社とさせていただきます。

数 学

会 長：続いて数学です。
数学につきましては、Aの教科書が特に優れているという報告でございました。
これについて、ご質問ございませんでしょうか。
では、なしということで、A社を選定することについて承認いただける方は挙手をお願いいたします。

会 長：はい。挙手全員ということで数学については、A社とさせていただきます。

理 科

会 長：続いて理科です。
理科につきましては、L社の教科書が最もすぐれた教科書であるということで報告がありましたが、これについてご質疑、ご意見ありませんでしょうか。
現行使っているのはA社ということでありました。
ないようでございますが、理科についてL社を選定することについて承認いただける方は挙手をお

願います。

会 長：はい。では挙手全員ということで、L社とさせていただきます。

保健体育

会 長：続いて音楽は終わりました。それから美術も終わりました。保健体育であります。

保健体育は、P社が特に優れた教科書であるという報告でございましたが、これについてご意見はございませんでしょうか。

では、意見なしということでP社を選定することについて、承認される方は挙手をお願いいたします。

会 長：では挙手全員。P社とさせていただきます。

家 庭

会 長：技術については午前中で終わりました。

次、家庭でございます。

家庭については、32ページですけれども、A社が特に優れた教科書であるという報告でございました。

これについてご意見ございませんでしょうか。

会 長：では、意見はないということで、A社を選定することについて、承認いただける方は挙手をお願いいたします。

会 長：はい。では挙手全員ということで過程については、A社とさせていただきます。

英 語

会 長：続いて34ページ、英語でございます。

これが、A、D、I社ということでございましたが、報告の中では、A社かI社かというような内容であったというふうに思います。

最終的に代表調査員からは、A社というふうな意向であったかと思いましたが、これについては、皆さん、異議はございませんでしょうか。どうでしょうか。

委 員：ちょっと教えてもらっていいですか。

この採択会議の趣旨というか、要は調査員さんが満場一致でというのが本当は一番理想的なんではないかこういう場合は大体、要は、この会議で決定ということになるわけですね。

事務局：この会議で選定をして、ありましたように委員の全員の一致ということになっておりますが、そうならない場合には、投票になります。

委 員：となるとなかなか二者択一みたいな感じでここに委ねられているとなると、なぜどっちがいいかという理由をこの会議として一応何かこう、お示しをした上で決めるということにしておかないといけないでしょうね。

事務局：最終、選定した理由というのは、公表もいたします。

委員：業者さんから問い合わせというか、開示請求みたいのがあったときにはやっぱりそこがポイントでしょうから。

事務局：本日の会議録については公表いたしますので。

会長：まず、調査員からの報告が3つであったということで質問の中で、2つに絞り込んだかなと思っていましたけども最終的にこれだというところの決め手にはなかなか、なるものはなかったということ。

方法としては2つあると思っています。

1つは今日の報告と、質問に対する答えから、こちらが、より良いんじゃないかということをここで、先ほど理由づけということにはなと思うんですけども、皆さんの合意で決めるということ。もう1つは再調査ということを求めるということにいます。ですから、今回で言うと、一応候補はたくさんありますけども、2社について再調査をして欲しいと、どちらの教科書がより子どもたちにとって或いは指導する先生方にとってよい教科書かっていうのを、判断して欲しいということ再度求めるという、この2点、2つの方法になろうかと思えますけど。どうでしょうか。

委員：お話の中でも、I社を推されたのが2人で、1人、A社が1名だったっていうこともあって、来られた方が実は、代表だから決定をしますみたいな形で、なんかちょっとそれも、今日はおかしいというか、何か皆さんがうんうんって納得できる形をとった方が、やっぱりいいんじゃないかなと個人的にやっぱり聞きながら、ここでやっぱりきちんとそこで、それぞれ多分言い分があると思うんですね。

3年間、多分、I社の方が連続性のある教科書体系だったからよかったということだったと思って、それを推された先生方もやっぱり、ずっとこのまま今までのやり方教科書がいいところもあるけども、ここでやっぱりこういうふうにして変えていきたい、何か理由があったと思います。そこはもう少し調査員の方々の、もう一度、きちんと再度やっていただいた方がいいんじゃないかなって、ちょっと今聞きながら、僕自身は思いましたけど。

他の委員さん方がそれで、そうは言ってもということであれば、またそれぞれ意見を聞かせていただいたらいいかなと。

会長：確かに報告の中で先ほどのような発言があったことは確かですので、委員さんの中でも意見が統一されてはいないという状況が伺えました。

委員：再調査も同じ調査員、同じメンバーですか。

事務局：そうです。同じ方でさせていただきます。

委員：そうすると、また意見が分かれる可能性がある。

会長：ただ、そこは調査員として、何が一番有益かということに立って、調査をいただかないといけないので、その点で、理由をきちっと明らかにした報告をして欲しいということになろうかと思えます。では、英語については、報告をまとめる形になりますけども、I社とA社の2社についてということとしてよろしいか。

最初3社ということではあったので、具体的に報告の中身としては3社を挙げての報告でしたけども、私としては、調査員の中でのいろんな意見のまとまりがまだ十分図れてないのはAかIかということではなかったかなというふうに思いましたが、この2社について再度調査をいただいて、報告をいただくということにしてよろしいでしょうか。

委 員：はい。

会 長：では、再調査を求めるということで、決定いただける方は挙手をお願いいたします。

会 長：はい。ありがとうございました。

では、英語については、A社、I社についての再調査を求めるということで、本日の選定はしないということで進めさせていただきたいと思います。

特別の教科 道徳

会 長：では続いて最後、特別の教科道徳でございます。

調査員の報告からは、O社が特に優れている教科書であるという報告でありました。

そのことについてご意見ありますでしょうか。

会 長：では、これについてはないようですので特別の教科道徳については、O社を選定することについて、承認いただける方は挙手をお願いします。

会 長：はい。では全員でございますので、特別の教科道徳は、O社とさせていただきます。

会 長：一応選定は以上となりますけれども、午前中のところから、選定作業をしていただいた結果について事務局からでいいですかね。

説明の方を再度確認ということにさせていただきたいと思います。

事務局：失礼いたします。大変長時間にわたりまして審議いただきました。

それでは、この後のことについてですね…。

会 長：すいません、改めてもう一度、すべての調査結果の選定結果について申し上げます。

では国語から順に申し上げます。

国語、A社。

書写、A社。

地理、J社。

歴史、A社。

公民、J社。

地図、J社。

数学、A社。

理科 L社。

音楽、H社。

美術、O社。

保健体育、P社。

技術、A社。

家庭、A社。

英語は、再調査を求める。

特別の教科道徳、O社。

以上であったと思います。

間違いなかったでしょうか。

委 員：はい。

その他

会 長：続けて、補足をお願いします。

事務局：大変失礼いたしました。

ではさきほどありましたように、英語については再調査を求めるということになります。

協議会の資料、9ページの方をご覧いただきたいと思います。

先に、2のその他ということなので、今後の日程についてというところでございます。

本日英語につきましては再調査を求めるということになりましたので、本日、決定しない教科がございましたので、予備日の8月6日の火曜日の午前中になるかと思います。

8月6日は、委員の皆さん方、ご予定がいかがでございましょうか

会 長：もしご都合の悪い時間体があったら聞いといた方がいいと思います。

委 員：午前中は何時ぐらい。

事務局：都合の悪い時間があったら言っといえていただくと。

委 員：午後ですので、午前中は大丈夫です。

午前中では早い時間なら大丈夫です。

会 長：他の委員さんいかがでしょうか。

英語の代表調査員に来ていただいて、再度調査報告いただいて、質疑をして、選定をするということになりますので、会議自体は30分程度と思います。

委 員：9時でも9時半でも大丈夫です。

事務局：では、そこで予定させていただきたいと思います。

他の教科につきましては本日の結果を受けまして、採択の理由書を作成していきます。

それから、今日のところ議事録というのをこれから作っていきます。

これはできた段階で、また各市町の教育長様宛にメールで送らせていただきたいと思います。

ご確認をいただいた後に修正点等お知らせいただきまして、すぐに修正加えたものをまた最終確認いただきます。

英語につきましては、8月6日のところで、再度、協議会を開催いたしまして、すぐ英語に関する理由書、それから議事録を作成いたしまして、速やかに、これもご確認をいただきたいというふうになっております。

これまでお話をしておりますように8月の末までに、教科書の選定を各市町教育委員会の方で承認を受けていただく必要がございますので、これらの資料をもって、教育委員会の方でお諮りいただきたいと思います。

それで、1番のところに帰るんですけど、教育委員会の採択というところで、それぞれ8月に教育委員会の方を予定をしていらっしゃるかと思うんですけども、そちらの日程が今分かれば、ここでお聞かせいただければと思いますが、

出雲市は今8月の20日予定をしております。

雲南市さんは。

委 員：ちょっと今、まだ分かりません。

事務局：奥出雲町さんは。

委 員：今月の定例の教育委員会で、その次の8月を決めますので。

事務局：また、決まったところでお願いします。飯南町さんはいかがでございます。

委 員：飯南町は8月29日の午後です。

事務局：教育委員会開催までのところで、関係する資料はお送りをしたいと考えておりますので、よろしく
お願いいたします。

それぞれの教育委員会での審議結果ご承認いただいたということでございますれば、恐れ入りますが、その結果につきまして事務局の方までご連絡、いついつの定例会で承認されましたということ
をお知らせください。

資料が前後してもうしわけございませんけれども、2その他の（2）のところであります。

採択結果の公表につきましては、8月30日金曜日の10時としています。

出雲市の記者クラブへの情報提供、出雲市のホームページへの掲載をまいります。

公表する内容についてはそこに掲げております。

請求に応じて公表するもの、請求があっても公表しないものにつきましては、研究調査員の氏名、
等となっています。

また、次回の協議会につきましては、改めてご案内を差し上げたいと思います。

会 長：今日、採択する候補の教科書を選定することができてできない教科もありましたけれども、ご面倒
おかけしますが非常に重要な案件でございますので次回、第3回目となりますけれども、短時間にな
ると思いますが、会議を開かせていただきますのでどうか、都合をつけていただきますようお願い
いたします。

では、本日、大変ありがとうございました。

委 員：ありがとうございました。

会 長：それでは事務局にお返しします。
お願いします。

事務局：本日は長時間、ご協議いただきましてありがとうございます。

次回、また8月6日ということでございますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日はどうもありがとうございました。お気をつけてお帰りください。